

INCLUDES エッチングパーツ・金属パーツ付き
PHOTO-ETCHED PARTS & METAL PARTS



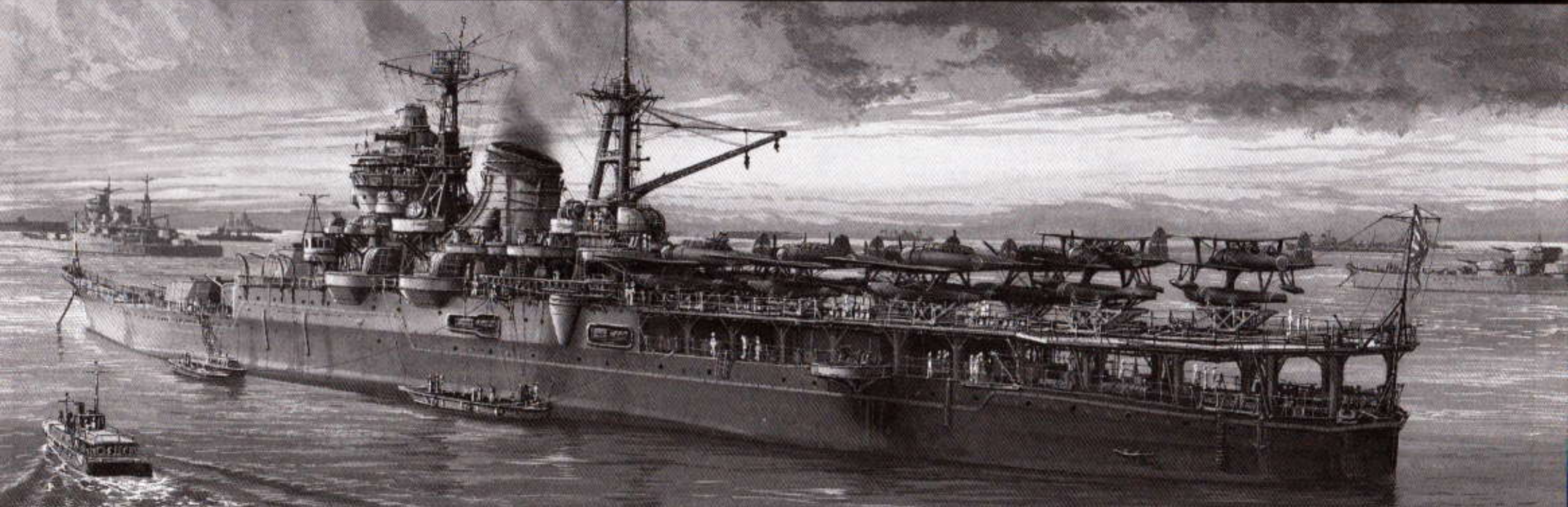
*MODEL MAY BE ASSEMBLED AS A FULL HULL MODEL WITH DISPLAY STAND OR WATERLINE MODEL *PHOTO-ETCHED PARTS INCLUDED FOR ENHANCED DETAIL *3 F1M & 8 E13A AIRCRAFT INCLUDED *ANCHOR CHAIN AND PROPELLER SHAFTS MADE WITH METAL PARTS
*READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT *MODELING SKILLS IS HELPFUL IF UNDER 10 YEARS OF AGE *MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX *CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED *KIT CONTAINS PARTS FOR ONE MODEL



JAPANESE MOGAMI 最上

AIRCRAFT CARRYING CRUISER

1/350 艦船シリーズ NO.21
日本航空巡洋艦 最上



JAPANESE MOGAMI 最上

AIRCRAFT CARRYING CRUISER



■軽巡「最上」型の登場まで

第一次大戦後、各国の建艦競争に歯止めをかけるためにワシントン海軍軍縮会議が開催され、10年間の主力艦建造禁止と保有総排水量の規制、そして搭載最大口径が16インチと定められました。これに続き、昭和5年にロンドンで開催された補助艦艇の制限を主な目的とした軍縮条約では、主要各国の巡洋艦保有量について新たな制限が設けられました。日本は対米比率、重巡洋艦で6割、軽巡洋艦で7割に抑えられてしまいますが、6インチ砲搭載の軽巡は保有枠に多少の余裕があり、これに退役予定の旧式巡洋艦と、昭和11年には艦齢が古くなる天龍型および5,500トン型の代艦を建造することになれば、特例により50,955トンまでの建造枠を有していました。その枠内でなら6インチ砲搭載の8,500トン級軽巡を最大6隻建造することが可能だったのです。そこで計画されたのが「最上」型軽巡4隻と、利根型軽巡(後に重巡として竣工)2隻でした。

「最上」型は昭和6年に第一次艦艇補充計画39隻の中の8,500トン型巡洋艦4隻として承認され、「最上」はその一番艦として昭和6年10月に呉海軍工廠で建造が開始されました。当初の要求は制限内の8,500トンの船体に15.5cm三連装砲塔5基、61cm魚雷発射管三連装4基、12.7cm連装高角砲4基を搭載しながら、8インチ砲弾に耐えうる船体とし、かつ速力37ノット、航続力14ノットで8,000海里という強力なもので、対空機銃も25mm連装4基と艦橋防弾用の13mm連装2基を装備しています。実は「最上」型は基本計画段階より主砲の15.5cm三連装を、軍縮条約明けには20.3cm連装砲に換装が可能なように考慮されていたが、その他の主力艦も条約明けをにらんだ新式兵装の装備が求められていたため、当時の艦艇は重心点が高めで、復元力に欠けるきらいがあったのです。

このような中「最上」進水直前の昭和9年3月12日、佐世保港外で訓練中の新鋭水雷艇「友鶴」が旋回中に突然転覆するという、いわゆる「友鶴事件」が発生しました。このため進水したばかりの「最上」や進水直前の二番艦「三隈」を含め、当時建造中であった各艦艇は、復元力不足に対応するため再検討が行われることとなります。「最上」型も当初予定されていた艦橋を小型でコンパクトなものに改正しましたが、合わせて船体の補強を行ったことにより、排水量は計画を2,000トン近く上回る11,200トンまで増大してしまいました。各種の問題を含んだまま「最上」の公試運転は昭和10年3月20日に行われますが、このとき船体の一部に亀裂や歪みが発生、強度不足が懸念されたのです。

一応の補強を行い「最上」は同年7月28日に、「三隈」は8月29日に竣工し、艦隊に編入されましたが、編入直後に参加した海軍大演習で、参加艦艇

の多くが超大型の台風に遭遇するという「第四艦隊事件」に巻き込まれてしまいます。特型駆逐艦や軽空母「龍驤」の損害ほどではありませんでしたが「最上」も航行中に激しい振動と異音が発生し、船体外板に大きなシワが生じてしまいました。この事件により主要艦艇は船体強度に対する再検討が行われ、この対策のため「最上」は翌昭和11年4月から13年2月まで、「三隈」は昭和11年4月から翌年10月末まで、船体補強の性能改善工事が行われることとなりました。

■ロンドン条約脱退と重巡への改装

昭和10年12月、第二次ロンドン会議で、日本は列強との不平等を改正すべく、新軍縮条約として主力艦すべてを廃棄し、軽巡以下の艦艇を平等に配備するという極端な提案を行いますが、もとより列強の入れる所とはならず、規約に従い、翌年1月15日に条約脱退を通告しました。すでに条約脱退を想定して準備を進めていた日本海軍は、昭和12年に策定された第三次艦艇補充計画により大和型戦艦2隻、翔鶴型航空母艦2隻の建造と、艦艇・重巡洋艦の近代化改装工事に着手します。建造途中であった軽巡「利根」型は20.3cm砲搭載の重巡洋艦として竣工することとなり、「最上」型軽巡も当初の予定どおり、主砲の換装工事に着手しました。

この改装では、主砲の換装のほか、魚雷発射管を九〇式から最新鋭の九三式酸素魚雷に変更し、合わせて前横トップには魚雷の発射指揮所が新設されています。日米間に戦雲が高まった昭和16年後半には、艦戦準備として舷側に消磁回路の設置を含む出撃準備が行われました。

■太平洋戦争中の「最上」型

開戦時「最上」型4隻は、栗田少将指揮下「熊野」を旗艦に、第二艦隊第七戦隊を編成し、マレー上陸部隊の護衛部隊として上陸作戦を支援しました。翌昭和17年2月のジャワ上陸作戦で「最上」は、第二小隊の僚艦「三隈」とともにバンタム湾上陸作戦に参加します。この輸送船団を護衛中に、出撃してきた米軍巡洋艦部隊との間で「バタビア沖海戦」が起きました。「最上」は「三隈」や第五水雷戦隊と共同して豪軽巡「バース」と米重巡「ヒューストン」を撃沈するという戦果をあげています。4月に第七戦隊はベンガル湾機動作戦としてビルマ(現ミャンマー)沖での通商破壊戦を展開します。カルカッタ方面に進出した第一小隊の「熊野」と「鈴谷」は敵商船5隻を、マドラス方面に進出した第二小隊の「三隈」「最上」は7隻を撃沈する戦果をあげて帰投しました。

その後兵に帰投した第七戦隊は、整備の後ミッドウェー作戦に攻略部隊の支援隊として参加しましたが、6月4日に南雲機動部隊の空母4隻が相次いで撃沈されてしまいます。第七戦隊はその夜、ミッドウ

ェー島砲撃の指令を受け進撃しますが、途中で連合艦隊の作戦中止命令を受け、反転します。その直後に浮上潜水艦を発見、これを回避するための回頭中、信号伝達に混乱が生じ、最後尾の「最上」は三番艦の「三隈」に艦首を衝突させてしまいました。「三隈」の損傷は軽微でしたが、「最上」は艦首が折れ曲がり、自力航行が困難となってしまったため、「三隈」の護衛を受けながら後退しました。しかし、6月7日になって追撃してきた米機動部隊の艦艇に捕捉され、両艦とも大破沈没してしまいました。「三隈」は搭載魚雷の誘爆もあって行動不能となり、ついに沈没してしまいましたが、「最上」は必死の消火作業により沈没までは至らず、無事に帰投することができました。

■航空巡洋艦への改装

傷ついた「最上」は戦傷復旧を兼ねて「航空巡洋艦」への改装工事に着手しました。これはミッドウェー海戦で主力空母群を失い、残された空母を第三艦隊として独立させたことで、第二艦隊の航空索敵能力が低下してしまうのを防ぐためと、当時開発中だった偵察・観測・爆撃をこなす万能水上機「瑞雲」の搭載母艦とするための計画でした。

「最上」の改装修理は昭和17年9月1日より18年5月まで佐世保海軍工廠で実施され、後部の四番、五番砲塔を撤去し、航空作業甲板から艦尾までフラットな一体の飛行甲板を設置、零式水上観測機や零式三座水上偵察機など合わせて11機を搭載する「航空巡洋艦」へと生まれ変わったのです。ただし予定された「瑞雲」の制式化が遅れ、その他の機体も機材不足のため、改修工事直後の航空機定数表によれば二座観測機3機、三座偵察機5機で11機を搭載したことはなかったようです。



イラスト:上田信

●零式水上偵察機一型(零式一号水上偵察機一型)

なお、この整備期間中に艦橋前の13mm連装機銃2基を25mm三連装へ換装し、後部予備指揮所両舷へ25mm三連装を増設するとともに、飛行甲板両舷へも25mm三連装を左右装備位置をずらして新設するなど対空兵装の大幅な強化をしています。さらに、前横トップへ2号1型電波探信機を装備したり、艦橋トップの防空指揮所改装や艦橋前面の射撃指揮装置の装備などを実施しました。

昭和18年6月10日、「最上」は第三艦隊第七戦隊

に復帰し、再び南方戦線へと出撃しましたが、同年11月5日の米軍機によるラバウル空襲で一番砲塔直後に直撃弾を受け中破してしまい、同年末より呉工廠で再び入渠整備を行いました。このときの改装で、艦橋両舷と飛行甲板最後尾に25mm三連装機銃が増備され、単装機銃も18基が航空甲板を中心として増備されました。同時に対空用1号3型電波探信機と、対水上用2号2型電波探信機が追加装備されています。「最上」は入渠中の昭和19年1月に第七戦隊より除かれ、第三艦隊付属となりました。搭載機は三座水上偵察機5機に縮小されています。

マリアナ沖に展開された「あ号作戦」で「最上」は第二航空戦隊の直衝として参加しましたが、特に損害はなく、無事に帰還しています。■捷一号作戦に消ゆ

昭和19年10月、米軍のレイテ島上陸により発令された「捷一号」作戦で、「最上」はブルネイ泊地に集結した第二艦隊を中心とした第一遊撃部隊(栗田艦隊)の第三部隊(西村艦隊)に編入されてレイテ沖海戦に参加しました。

「最上」は低速のため本隊より一足早く出撃し、スリガオ海峡からレイテ突入を目指す戦艦「扶桑」「山城」の直衝として最短距離のスリガオ海峡へ向かいました。途中最上より発進した水上偵察機がレイテ島の偵察に成功し、湾内に戦艦4隻、巡洋艦2隻、輸送船80隻以上を知らせてきました。しかし10月24日夜半、スリガオ海峡に突入した西村部隊はオルデンドルフ中将指揮の米艦隊部隊の待ち伏せに会い、主力の「扶桑」と「山城」を失ってしまいます。「最上」も艦橋に直撃弾を受け、艦長以下の司令部要員が全滅してしまつたため、反転・離脱中に、後続していた第五艦隊(志摩艦隊)旗艦の「那智」に衝突され、航行困難となってしまいました。志摩部隊の駆逐艦「曙」に護衛されて単独後退の途中、米軍機約30機が来襲し、爆弾の命中により再び炎上してしまつたため、やむなく「曙」の魚雷により自沈処分とされ、レイテ島の南、バナオン島沖に艦影を消していったのです。

■航空巡洋艦「最上」主要要目(航空巡洋艦に改装時)

- 基準排水量12,000トン
- 全長200.6m 最大幅20.51m
- 主機:艦本式高中圧式タービン4基4軸
- 出力152,000馬力
- 最高速力36ノット
- 武装:20.3cm連装砲×3基、12.7cm連装高角砲×4基、25mm3連装機銃×10基、61cm3連装発射管×4基
- 航空兵装:呉式2号5型射撃機2基
- 搭載機:零式三座水上偵察機8機、零式水上観測機3機(実搭載は当初は三座偵察機5機、二座観測機3機、1944年4月以降は三座偵察機5機)

《The Light Cruiser Mogami》

Following the Washington Naval Treaty, which placed various limits on the navies of each major naval power, the London Naval Treaty in 1930 placed further limits on smaller warships, including the number of cruisers that each country could maintain. With older ships such as the Tenryu-class set for retirement, Japan was given a special allowance to build 50,955 tons worth of new light cruisers armed with 6-in. guns. Six 8,500 ton ships were planned, four Mogami-class and two Tone-class.

The four Mogami-class ships were among the 39 vessels built under the First Fleet Replenishment Program in 1931, and construction of Mogami, the lead ship, began at Kure Naval Arsenal that October. Initial requirements called for 5 triple 15.5cm gun turrets, 4 triple 61cm torpedo launchers, 4 twin 12.7cm gun mounts, protection against 8-in. shells, top speed of 37 knots, range of 8,000 nautical miles at a cruising speed of 14 knots, 4 twin 25mm guns, and 2 twin 13mm machine guns to be fitted within the 8,500 ton displacement limit. The Mogami-class was designed so that their triple 15.5cm gun turrets could be replaced by twin 20.3cm gun turrets when the naval treaties were lifted, which meant that they, as well as other Japanese navy ships at the time, were top-heavy and unstable. After the "Tomotsuru Incident" on March 12, 1934, all ships under construction, including the just-launched Mogami and the soon-to-be-launched Mikuma were re-evaluated for stability. A smaller bridge was installed but hull strengthening modifications increased displacement to 11,200 tons. Despite several problems, Mogami began official trials on March 20, 1935, during which cracks appeared on parts of her hull, leading to fears of inadequate strength. Reinforcement was carried out and after completion on July 28 and October 29, 1935 respectively, Mogami and Mikuma joined the fleet and were involved in the "4th Fleet Incident." Mogami experienced vibrations and strange noises and some outer hull plates were crumpled during the typhoon. After this incident, all major warships underwent further hull reinforcement.

《Conversion to Heavy Cruiser》

At the Second London Naval Treaty in December 1935, Japan demanded equality with the other countries and proposed the abolishment of capital ships as well as requested numerical parity for light cruisers and below. However, this was rejected by the major powers, so Japan withdrew from all naval treaties on January 15, 1936. Having already planned for this contingency, the Japanese Navy began the Third Fleet Replenishment Program in 1937, which included construction of two Yamato-class battleships, two Shokaku-class carriers, as well as the modernization of other warships. The Mogami-class as well as the Tone-class then under construction were fitted with 20.3cm gun turrets and converted into heavy cruisers. As war between Japan and America became imminent in the latter half of 1941, preparations were made for deployment.

《Mogami-class in WWII》

At the start of WWII, the four Mogami-class ships, under the command of Rear Admiral Kurita on the flagship Kumano, formed the 2nd Fleet's Cruiser Division 7 and took part in escorting and supporting the Malay invasion force. In February 1942, the Mogami and Mikuma escorted transports for the invasion of Java at Bantam Bay, and together with Destroyer Division 5, they sank the Australian light cruiser HMAS Perth and the American

heavy cruiser USS Houston in the Battle of Sunda Strait. In March, the unit took part in the Indian Ocean raids in the Bay of Bengal, with Kumano and Suzuya sinking 5 merchant ships around Calcutta and Mogami and Mikuma sinking 7 around Madras. The unit then returned to Kure for refitting and joined the Midway invasion support force. On June 4, the four carriers of Vice Admiral Nagumo's Mobile Fleet were sunk, and although Cruiser Division 7 was ordered to shell Midway Island that night, the operation was cancelled and the unit was ordered back. Soon after, a US submarine was spotted and in the ensuing evasion maneuver, a signal error led to Mogami ramming Mikuma. The retreating damaged cruisers were discovered by US carrier aircraft on June 7, and both were hit, with Mikuma sinking after her torpedoes exploded and Mogami saved only through valiant firefighting.

《Conversion to Aircraft Carrying Cruiser》

Mogami's conversion into an aircraft carrying cruiser was performed while repairs were carried out. After losing the main carrier force at Midway, the remaining carriers formed the independent 3rd Fleet, so the 2nd Fleet needed a carrier for the Aichi E16A "Zuiun" multipurpose floatplane then in development. Mogami was converted at Sasebo Naval Arsenal from September 1, 1942 to May 1943, with turrets no. 4 and 5 removed to make way for a flat flight deck that extended to the stern. The resulting aircraft carrying cruiser could accommodate 11 aircraft such as the Aichi E16A "Zuiun," Mitsubishi F1M "Pete," and Aichi E13A "Jake." Due to production delays with the E16A and a shortage of other aircraft, it only carried three F1M and 5 E13A when the conversion was finished. During this refitting, several triple 25mm guns were added as anti-aircraft armament was drastically increased. Mogami rejoined the fleet in the South Pacific on June 10, 1943, but suffered a hit behind turret no.1 when US planes attacked Rabaul on November 5 which required a return to Kure. During the refit, more triple 25mm guns as well as 18 single 25mm guns were added, and both Type 13 air-search and Type 22 surface-search radars were installed. While refitting, Mogami was detached from Cruiser Division 7, reassigned to the 3rd Fleet, and had her aircraft complement reduced to five. She then escorted Carrier Division 2 during Operation "A-Go" at the Battle of the Philippine Sea, surviving to return to Japan.

《Demise at Operation "Sho-Ichi-Go"》

After the US invasion at Leyte in October 1944, Mogami was assigned to Admiral Nishimura's fleet, which was a part of Admiral Kurita's fleet that was gathered at Brunei to take part in the Battle of Leyte Gulf. Mogami departed before the main force as escort for the battleships Fuso and Yamashiro and headed to the Surigao Strait by the shortest possible route. As Nishimura's force entered the Surigao Strait at midnight on October 24, it ran into Rear Admiral Oldendorf's ambush, and both the Fuso and Yamashiro were sunk. Mogami took hits to its bridge and soon withdrew, only to collide with the heavy cruiser Nachi, flagship of Admiral Shima's force which was following. Mogami then withdrew under escort by the destroyer Akebono, but was discovered by approximately 30 US aircraft and several hits set her aflame. She was finally scuttled by a torpedo from Akebono off the coast of Panaon Island.

Aircraft Carrying Cruiser Mogami Specifications (at time of conversion)
Standard Displacement: 12,000 tons

Overall Length: 200.6m

Maximum Beam: 20.51m

Propulsion: 4 geared turbines, 4 screws

Output: 152,000hp Maximum Speed: 36 knots

Armament: Twin 20.3cm gun turret x3, Twin 12.7cm gun turret x4, Triple 25mm guns x10, Triple 61cm torpedo launcher x4

Aircraft: Kure Type No. 2 Mod. 5 Catapult x2, Aichi E13A "Jake" x8, Mitsubishi F1M "Pete" x3 (Actual complement was initially 5 E13A and 3 F1M. 5 E13A from April 1944.)

《Leichter Kreuzer Mogami》

Anschließend an das Washingtoner Marineabkommen, welches der Marine jeder größeren Seemacht verschiedene Begrenzungen auferlegte, setzte das Londoner Marineabkommen von 1930 weitere Begrenzungen für kleinere Kriegsschiffe fest, einschließlich der Zahl von Kreuzern, die jedes Land unterhalten durfte. Indem man die älteren Schiffe wie etwa die Tenryu-Klasse auf Außerdienststellung einstuft, erhielt Japan die Sondergenehmigung, den Gegenwert von 50.995 Tonnen in neuen, leichten Kreuzern mit 6 Zoll (15,2 cm) Kanonen zu bauen. Sechs 8.500-Tonnen-Schiffe waren geplant, vier der Mogami-Klasse und zwei der Tone-Klasse.

Die vier Schiffe der Mogami-Klasse waren unter den 39 Schiffen, die im Rahmen des Ersten Flotten-Ergänzungsprogramms 1931 gebaut wurden und die Konstruktion der Mogami, dem Führungsschiff, begann in diesem Oktober beim Kure Marine-Arsenal. Die Anforderungen zu Beginn verlangten 5 Dreifach-15,5cm-Kanonentürme, 4 dreifach 61cm Torpedo-Abschussrohre, 4 Zwillinge-12,7cm-Kanonentürme, Schutz gegen 8 Zoll (20,3cm) Granaten, eine Höchstgeschwindigkeit von 37 Knoten, eine Reichweite von 8.000 Seemeilen bei einer Marschgeschwindigkeit von 14 Knoten, 4 Zwillinge-25mm-Kanonen und 2 Zwillinge-13mm-Maschinengewehre, wobei alles innerhalb des Begrenzung auf 8.500 Tonnen Wasserverdrängung eingebaut werden sollte. Die Mogami-Klasse war so konstruiert, dass ihre Dreifach-15,5cm-Kanonentürme gegen Zwillinge-20,3cm-Kanonentürme ausgetauscht werden konnte, falls die Marineabkommen angehoben würden, das bedeutete aber, dass sie, wie andere Schiffe der Japanischen Marine zu der Zeit, kopflastig und instabil wurden. Nach dem "Tomotsuru-Vorfall" am 12. März 1934 wurden alle in Bau befindlichen Schiffe, einschließlich der gerade vom Stapel gelaufenen Mogami und der kurz vor dem Stapellauf stehenden Mikuma betreffend die Stabilität neu berechnet. Es wurde eine kleinere Brücke eingebaut, aber die Änderungen der Rumpfstärkung erhöht die Verdrängung auf 11.200 Tonnen. Trotz etlicher Probleme begann die Mogami die offiziellen Versuchsfahrten am 20. März 1935, während der sich an Teilen ihres Rumpfes Risse bildeten, die Angst vor unzureichender Festigkeit breitete sich aus. Weitere Verstärkungen wurden durchgeführt und nach der Fertigstellung am 28. Juli beziehungsweise 29. Oktober 1935 schlossen sich Mogami und Mikuma der Flotte an und wurden in den "4. Flotten-Vorfall" verwickelt. Mogami stellte Vibrationen und fremdartige Geräusche fest, dazu wurden einige äußere Rumpflattens während des Taifuns zerbeult. Nach diesem Vorfall wurden alle größeren Kriegsschiffe weiteren Verstärkungen unterzogen.

《Umwandlung in einen Schwere Kreuzer》

Beim Zweiten Londoner Marineabkommen im Dezember 1935 forderte Japan Gleichheit mit anderen Ländern und schlug die Abschaffung der großen Schiffe vor, wie es auch eine numerische Gleichstellung für Leichte Kreuzer und darunter verlangte. Dies wurde jedoch von den Großmächten zurückgewiesen, daher stieg Japan am 15. Januar 1935 aus allen Marineabkommen aus. Da man bereits für diesen Fall geplant hatte, begann die Japanische Marine 1937 mit dem Dritten Flotten-Ergänzungsprogramm, welches den Bau von zwei Schlachtschiffen der Yamato-Klasse einschloss, zwei Träger der Shokaku-Klasse wie auch die Modernisierung anderer Kriegsschiffe. Die Mogami-Klasse, wie auch die Tone-Klasse, die damals in Bau war, wurden mit 20,3cm Türmen ausgerüstet und in Schwere Kreuzer umgewandelt. Als Krieg zwischen Japan und Amerika in der späteren Hälfte 1941 drohend bevorstand, wurden Vorbereitungen zur Mobilmachung getroffen.

《Die Mogami-Klasse im Zweiten Weltkrieg》

Zu Beginn des Zweiten Weltkriegs bildeten die vier Schiffe der Mogami-Klasse unter dem Kommando von Konteradmiral Kurita auf dem Flaggschiff Kumano die Kreuzer-Division 7 der 2. Flotte und nahmen an der Eskorte und Unterstützung der Malaysia-Invasionstruppen teil. Im Februar 1942 begleiteten Mogami und Mikuma Transporte für die Invasion von Java in der Bantam Bay und versenkten zusammen mit der Zerstörer Division 5 den Australischen Leichten Kreuzer HMAS Perth und den Amerikanischen Schwere Kreuzer USS Huston während der Schlacht in der Sunda-Straße. Im März nahm die Einheit an Streifzügen im Indischen Ozean in der Bucht von Bengalen teil, wobei die Kumano und die Suzuya 5 Handelsschiffe in der Gegend von Kalkutta versenkte während die Mogami und die Mikuma 7 in der Nähe von Madras versenkte. Die Einheit kehrte dann zur Neuausrüstung nach Kure zurück und schloss sich den Versorgungsgruppen der Midway-Invasion an. Am 4. Juni wurden die vier Flugzeugträger von Viceadmiral Nagumo's Mobiler Flotte versenkt und obwohl die Midway-Division 7 den Befehl hatte, in dieser Nacht die Midway-Insel zu beschließen, wurde die Operation abgebrochen und die Einheit zurückbeordert. Kurze Zeit später wurde ein US U-Boot gesichtet und beim folgenden Ausweich-Manöver führte ein Signalfehler dazu, dass die Mogami die Mikuma rampte. Die sich zurückziehenden, beschädigten Kreuzer wurden am 7. Juni von einem US-Trägerflugzeug gesichtet und wurden beide getroffen, wobei die Mikuma sank, nachdem ihre Torpedos explodiert waren und die Mogami rettete sich nur durch beherztes Feuerlöschen.

《Umbau in einen Flugzeug tragenden Kreuzer》

Der Umbau der Mogami in einen Flugzeug tragenden Kreuzer wurde ausgeführt während der Reparaturarbeiten in Gang waren. Nachdem bei Midway die Hauptmacht der Träger verloren ging, bildeten die verbleibenden Träger die unabhängige 3. Flotte, folglich benötigte die 2. Flotte einen Träger für das in Entwicklung befindliche Aichi E16A "Zuiun" Mehrzweck-Wasserflugzeug. Die Mogami wurde zwischen dem 1. September 1942 und Mai 1943 auf dem Sasebo Marine Arsenal umgebaut, wobei die Türme 4 und 5 entfernt wurden, um Platz für ein flaches Flugdeck zu schaffen, das sich bis zum Heck erstreckte. Der dadurch entstehende Flugzeug tragenden Kreuzer konnte 11 Flugzeuge wie die Aichi E16A "Zuiun", Mitsubishi F1M "Pete" und Aichi E13A "Jake" aufnehmen. Wegen Verzögerung in der Produktion der E16A und Mangel an anderen Flugzeugen trug sie, als der Umbau fertig war, nur

3 F1M und 5 E13A. Im Laufe dieser Wiederherstellung wurden noch etliche Dreifach-25mm-Kanonen hinzugenommen, um die Luftabwehr-Bewaffnung drastisch zu verstärken. Die Mogami schloss sich am 10. Juni 1943 wieder der Flotte im Süd-Pazifik an, erlitt aber bei einem Angriff von US-Flugzeugen auf Rabaul am 5. November einen Treffer hinter Turm Nr. 1, welcher die Rückkehr nach Kure erforderte. Während der Reparatur wurden noch weitere Dreifach-25mm-Kanonen und auch 18 Einfach-25mm-Kanonen hinzugefügt, ferner wurden sowohl ein Typ 13 Lufradar- als auch ein Typ 22 Bodenradar eingebaut. Solange sie repariert wurde, war die Mogami von der Kreuzer-Division 7 freigestellt, wieder der 3. Flotte zugeordnet und ihre Flugzeugstärke auf fünf reduziert. Sie begleitete dann die Träger Division 2 während der Operation "A-Go" bei der Schlacht in der Philippinen See, die sie überlebte um nach Japan zurückzukehren.

«Untergang bei der Operation "Sho-Ichi-Go"»

Nach der US-Invasion von Leyte im Oktober 1944 wurde die Mogami Admiral Nishimura's Flotte zugeteilt, diese wiederum ein Teil von Admiral Kurita's Flotte, welche in Brunei versammelt war, um an der Schlacht am Leyte-Golf teilzunehmen. Mogami startete vor der Hauptstreitmacht als Eskorte für die Schlachtschiffe Fuso und Yamashiro und hielt auf kürzestem Wege auf die Surigao Straße zu. Als Nishimura's Streitkräfte am 24. Oktober um Mitternacht in die Surigao Straße eindringen, lief er geradewegs in einen Hinterhalt von Konteradmiral Oldendorf und sowohl die Fuso als auch die Yamashiro wurden versenkt. Mogami erhielt Treffer auf der Brücke und kehrte bald um, wobei sie dann jedoch mit dem schweren Kreuzer Nachi, dem Flaggschiff von Admiral Schima's Streitmacht, das folgte, kollidierte. Mogami zog sich unter Eskorte des Zerstörers Akebono zurück, wurde aber von etwa 30 US-Flugzeugen entdeckt und etliche Treffer setzten sie in Brand. Schließlich wurde sie von einem Torpedo der Akebono unweit der Küste der Insel Pananon selbst versenkt.

Technische Daten des Flugzeug tragenden Kreuzers Mogami (zum Zeitpunkt des Umbaus)

Standard Verdrängung: 12.000 Tonnen
Gesamtlänge: 200,6m
Maximale Höhe: 20,51m
Antrieb: 4 Getriebeturbinen, 4 Schrauben
Leistung: 152.000PS (Maximale Geschwindigkeit: 36 Knoten (66 km/h))
Bewaffnung: Zwillingsturm 20,3cm Kanone x3, Zwillingsturm 12,7cm Kanone x4, Dreifach 25mm Kanone x10, Dreifach 61cm Torpedo-Abschussrohr x4
Flugzeuge: Kure Typ No. 2 Mod. 5 Katapult x2, Aichi E13A "Jake" x8, Mitsubishi F1M "Pete" x3 (Aktuelle Bestückung 5 E13A und 3 F1M. 5 E13A ab April 1944.)

«Croiseur Léger Mogami»

Suite au Traité Naval de Washington qui imposait des limitations aux marines des puissances majeures, le Traité Naval de Londres de 1930 fixait d'autres limites pour les petits bâtiments, dont le nombre maximum de croiseurs dont chaque pays pouvait disposer. Avec des navires anciens comme ceux de la Classe Tenryu à renouveler, le Japon obtint la permission de construire de nouveaux

croiseurs légers équipés de canons de 6 pouces jaugeant au total 50.955 tonnes. Six bâtiments de 8.500 tonnes chacun furent prévus, quatre de la classe Mogami et deux de la Classe Tone.

Les quatre Classe Mogami faisaient partie des 39 bâtiments construits dans le cadre du Programme de Renforcement de la 1ère Flotte en 1931. La construction du Mogami, tête de série, commença à l'arsenal naval de Kure en octobre de cette même année. L'armement prévu à l'origine comprenait cinq tourelles triples de 155mm, quatre lance-torpilles triples de 61cm, quatre affûts doubles de 127mm. Le blindage devait résister aux obus de 200mm, la vitesse maximale prévue était de 37 nœuds, l'autonomie de 8.000 miles nautiques à 14 nœuds de croisière. Quatre affûts doubles de 25mm et deux mitrailleuses doubles de 13mm pouvaient être installés dans la limite des 8.500 tonnes de déplacement. Les Classe Mogami étaient conçus de façon à pouvoir remplacer les tourelles triples de 155mm par des tourelles doubles de 203mm quand les limites imposées par le traité seraient levées, ce qui signifie que, comme sur d'autres navires japonais de l'époque, ils étaient mal équilibrés et instables. Après l'incident de Tomotsuru le 12 mars 1934, tous les bateaux en construction dont le Mogami tout juste mis à l'eau et le Mikuma sur le point de l'être, furent revus pour accroître leur stabilité. Une passerelle plus petite fut installée mais les renforcements apportés à la coque firent passer le déplacement à 11.200 tonnes. Malgré divers problèmes, le Mogami commença ses essais en mer officiels le 20 mars 1935, durant lesquels apparurent des criques dans la coque. Des renforcements furent effectués et après la fin des travaux, le Mogami et le Mikuma rejoignirent la flotte le 28 juillet et le 29 octobre 1935 respectivement et furent impliqués dans « l'incident de la 4ème Flotte ». Le Mogami connut des vibrations et des bruits bizarres et des plaques extérieures de la coque furent déformées durant le typhon. Après cet incident, toutes les coques des grosses unités furent encore renforcées.

«Conversion en Croiseur Lourd»

Lors du second Traité Naval de Londres en décembre 1935, le Japon demanda l'égalité avec les autres pays, proposa l'abolition des cuirassés et réclama la parité numérique pour les croiseurs légers et unités plus petites. Cependant, ces propositions furent rejetées par les grandes puissances et le Japon se retira de tous les traités navals le 15 janvier 1936. Déjà préparée à cela, la Marine Japonaise lança son programme de renforcement de la 3ème Flotte en 1937, incluant la construction de deux cuirassés de la classe Yamato, deux porte-avions de la classe Shokaku et la modernisation d'autres unités. Les Classes Mogami et Tone en construction furent équipés de tourelles de 203mm et convertis en croiseurs lourds. La guerre avec les Etats-Unis devenant imminente fin 1941, on hâta leur déploiement.

«Les Classe Mogami pendant la 2ème G.M.»

Au début de la 2ème G.M., les quatre unités de la Classe Mogami sous le commandement du contre-amiral Kurita sur le navire-amiral Kumano, constituaient la 7ème Division de Croiseurs de la 2ème Flotte. Ils prirent part à l'escorte et au soutien des forces d'invasion de la Malaisie. En février 1942, le Mogami et le Mikuma escortèrent les transports pour l'invasion de Java et de Bantam Bay et avec la 5ème Division de Croiseurs, ils coulèrent le croiseur léger australien HMAS Perth et le croiseur lourd américain USS Houston lors de la Bataille du Déroit de la Sonde. En mars, l'unité participa à des raids dans la Baie du Bengale, le Kumano et le Suzuya coulant 5 navires marchands au large de Calcutta, le Mogami et le Mikuma 7 au large de Madras.

L'unité revint ensuite à Kure pour réarmement et rejoignit les forces de soutien à l'invasion de Midway. Le 4 juin, les quatre porte-avions du vice-amiral Nagumo furent coulés et bien que la 7ème Division de Croiseurs reçoive l'ordre de bombarder Midway la nuit, l'opération fut annulée et elle se retira. Peu de temps après, un sous-marin US fut repéré et durant les manœuvres d'évitement, le Mogami éprouna le Mikuma suite à une erreur de signalisation. Les bâtiments endommagés en retraite furent repérés et attaqués par des avions de la flotte américaine le 7 juin. Les deux furent touchés, le Mikuma sombrant après l'explosion de ses torpilles. Le Mogami fut sauvé grâce une vaillante lutte contre les incendies.

«Conversion en Croiseur Porte-Aéronefs»

La conversion du Mogami en Croiseur Porte-Aéronefs fut réalisée durant les travaux de réparation. Après avoir perdu la moitié de ses porte-avions à Midway, la Marine Impériale regroupa les survivants dans la 3ème Flotte indépendante. La 2ème Flotte avait besoin d'un bâtiment pour l'hydravion polyvalent Aichi E16A "Zuun" alors en développement. Le Mogami fut converti à l'arsenal naval de Sasebo entre le 1er septembre 1942 et mai 1943. Les tourelles 4 et 5 furent déposées pour laisser place à un pont aviation plat qui s'étendait jusqu'à la poupe. Ainsi converti, le navire pouvait emporter 11 appareils de divers types, Aichi E16A "Zuun," Mitsubishi F1M "Pete," et Aichi E13A "Jake." Du fait des retards de production du E16A et de la pénurie des autres types, le Mogami ne reçut que trois F1M et cinq E13A lorsque sa conversion fut terminée. Durant ce réarmement, plusieurs affûts triples de 25mm furent ajoutés et l'armement anti-aérien fut considérablement accru. Le Mogami rejoignit la flotte dans le Pacifique Sud le 10 juin 1943 mais fut touché derrière la tourelle N°1 par des avions US le 5 novembre à Rabaul, ce qui nécessita un retour à Kure. Durant les réparations, d'autres affûts triples de 25mm et 18 canons de 25mm furent ajoutés et des radars Type 13 de veille aérienne et Type 22 de surface installés. Le Mogami fut réaffecté à la 3ème Flotte et son parc aérien réduit à cinq appareils. Il escorta la 2ème Division de

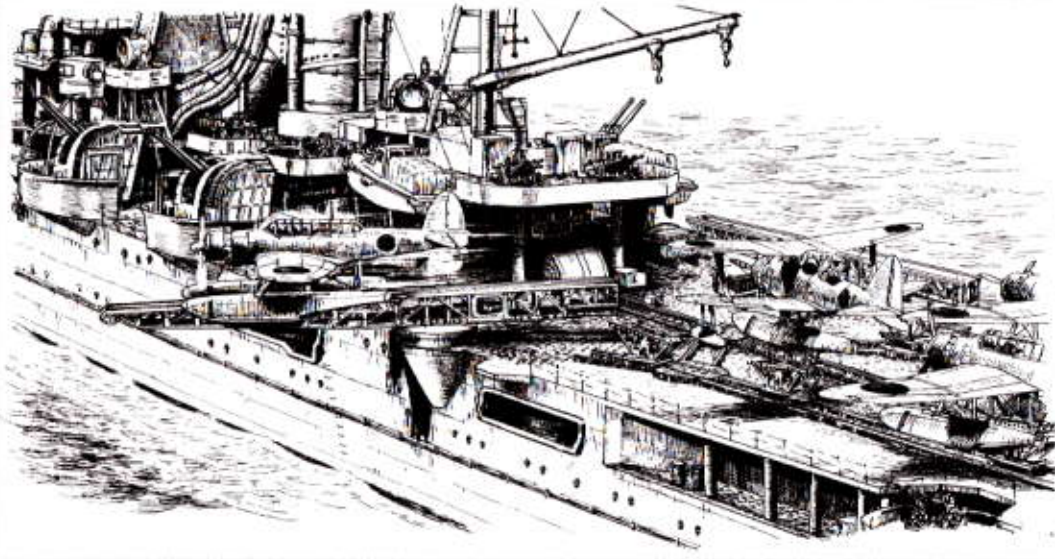
Porte-avions lors de l'Opération "A-Go" à la Bataille de la Mer des Philippines puis revint au Japon.

«La Fin à l'Opération "Sho-Ichi-Go"»

Après l'invasion américaine de Leyte en octobre 1944, le Mogami fut affecté à la Flotte de l'Amiral Nishimura, intégrée à la Flotte de l'Amiral Kurita regroupée à Brunei pour participer à la Bataille du Golfe de Leyte. Le Mogami appareilla avant la force principale pour escorter les porte-avions Fuso et Yamashiro et mit de cap sur le Déroit de Surigao par la route la plus courte. Lorsque les forces de Nishimura entrèrent dans le détroit le 24 octobre à minuit, elles tombèrent dans l'embuscade tendue par le Contre-Amiral Oldendorf et les Fuso et Yamashiro furent coulés. Le Mogami encaissa des coups à la passerelle de commandement et il battit en retraite, entrant en collision avec le croiseur lourd Nachi, navire-amiral de l'Amiral Shima qui suivait. Le Mogami se replia ensuite escorté par le destroyer Akebono, mais fut ensuite repéré par 30 avions américains qui l'attaquèrent et le touchèrent plusieurs fois, déclenchant des incendies. Il fut sabordé par une torpille de l'Akebono au large de l'île de Pananon.

Caractéristiques du Croiseur Porte-Aéronefs Mogami (au moment de sa conversion)

Déplacement standard: 12.000 tonnes
Longueur hors-tout: 200,6m
Largeur maximale: 20,51m
Propulsion: 4 turbines, 4 hélices.
Puissance: 152.000cv Vitesse maxi: 36 nœuds
Armement: 3x tourelles doubles 203mm, 4x tourelles doubles 127mm, 10x affûts triples 25mm, 4x lance-torpilles triples 61cm.
Parc aérien: 2x catapultes Kure Type No. 2 Mod. 5, 8x Aichi E13A "Jake", 3x Mitsubishi F1M "Pete" (le parc initial était de 5x E13A et 3x F1M. 5x E13A à partir d'avril 1944.)



INSTANT CEMENT

《瞬間接着剤について》

★通常は塗装する前に使用します。その際、接着面の油分を十分に取ってください。塗装後に接着する場合は接着面の塗料を落としてから使用します。この時、塗料が残っていると接着力が極端に低下するので注意しましょう。

★接着剤をつけすぎると接着力が落ちるだけでなく、白化しやすくなるので注意してください。

★劣化した接着剤は使用しないでください。不要な部品で試してから使用してください。

★使用する際は瞬間接着剤の取扱説明をよく読んでからご使用ください。

INSTANT CEMENT

★Remove any paint or oil from cementing surface before affixing parts.

★Use only a small amount of cement. Too much cement will make joints turn white and lose adhesion.

★Do not use old cement. Test cement first with

unnecessary parts such as sprues before use.

★Carefully read instructions on use before cementing.

SEKUNDENKLEBER

★Entfernen Sie alle Farbe und Ölflecke von der Kleboberfläche bevor sie Teile ankleben.

★Verwenden Sie nur geringe Mengen Klebstoff. Bei zuviel Klebstoff kann sich die Verbindung verschieben und die Haftkraft verloren gehen.

★Verwenden Sie keinen alten Klebstoff. Testen Sie den Kleber vor der Anwendung zuerst mit nicht benötigten Teilen etwa vom Spritzling.

★Vor dem Kleben die Gebrauchsanleitung sorgfältig lesen.

COLLE RAPIDE

★Enlever les traces de peinture ou de graisse des surfaces de contact avant de coller les pièces.

★N'utiliser qu'une petite quantité de colle. Un excès peut blanchir les lignes de joint et limiter l'adhésion.

★Ne pas utiliser une colle périmée. Tester la colle sur des pièces inutilisées comme des morceaux de grappes avant utilisation effective.

★Lire soigneusement les instructions avant de coller.

PHOTO-ETCHED PARTS

《エッチングパーツ》

①切りはなす時はカッターナイフなどを使用してパーツを切りはなします。

②切り出した時、部品に出張った部分が残っている場合は、ヤスリなどで丁寧に削り落とします。

③塗装が必要なパーツは下地にメタルプライマーを吹きつけてから塗装します。

●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切る恐れがあります。取り扱いには十分注意してください。

PHOTO-ETCHED PARTS

①Cut off photo etched parts using a modeling knife.

②Carefully remove any excess using a file.

③Apply metal primer prior to painting.

●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling photo-etched parts.

FOTOGEÄTZTE TEILE

①Die fotoeätzten Teile mit einem Modellbaumesser

abschneiden.

②Überstände vorsichtig mit einer Feile entfernen.

③Vor dem Lackieren Metall-Grundierung auftragen.

●Beim Umgang mit fotoeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PIÈCES PHOTO-DÉCOUPÉES

①Détacher les pièces photo-découpées avec un couteau de modéliste.

②Enlever les parties excédentaires en les limant soigneusement.

③Appliquer de l'apprêt pour métal Tamiya avant de peindre.

●Manipuler les pièces photo-découpées avec précaution pour éviter les blessures.

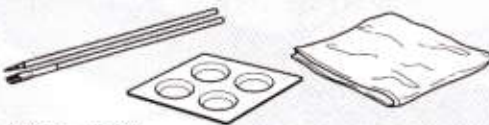
PAINTING TIPS

《塗装する前に》

各製品の塗装する面のゴミやほこり、油などを柔らかい布で拭き取ってください。中性洗剤で1度洗っておくのもよいでしょう。接着剤のはみ出しやキズは塗装では隠せません。カッターナイフや目の細かな紙ヤスリで修正します。また、パーティングライン(部品にのこる成型行程上の合わせ目)もヤスリをかけ修正塗装します。

《塗料用具について》

タミヤモデリングブラシ、とき皿、ウエス(ボロ布)をご用意ください。タミヤでは各種モデリングブラシをとりそろえてあります。筆塗りする場所や用途に合わせてご用意ください。塗装し終わった筆はウエスでよく塗料をぬぐい取り、溶剤(エナメル用とアクリル用がありますので注意してください。)でよく塗料を洗い流し、水洗いしてから保管します。



《スプレー塗装》

船体やブリッジなどの大きなパーツの塗装には、広い面積の塗装でもムラがでにくく美しい仕上がりが楽しめるスプレー塗料が便利です。また、同じ塗装色で仕上げるパーツはできるだけ組み立ててから塗装するのがよいでしょう。★スプレー塗料は缶に印刷された注意をよく読んで正しく使用してください。また、火気のある場所での塗装は絶対にしてはいけません。

《小さなパーツの塗装》

小さなパーツの塗装には筆塗り塗料が最適です。パーツはランナーから切り取らずに、ランナーについたまま塗装すると作業がしやすくなります。



PRIOR TO PAINTING

●Remove all dust and oil from parts prior to painting. If necessary, wash with detergent, rinse off thoroughly and allow to air dry.

●Remove excess cement, fill in and clean up joints and seam lines. Smooth surface using a modeling knife and fine abrasive papers.

BRUSH PAINTING

●Brush painting is the most common method of adding color to models, especially for the fine detail. In addition to the basic paints and brushes, the following items come in handy when painting: exclusive paint thinner, an empty paint jar or small paint tray, and rags. After painting, wipe paint from brush with rags and clean brush with thinner.

●Allow adequate ventilation while painting.

SPRAY PAINTING

●For finishing large areas, the use of spray paints or an airbrush will provide an even finish. Use a cardboard box, newspapers, etc. to keep from painting other areas.

●Objects to be painted should be secured on a base, so that you have access to all areas. Use double-sided tape or spring clips for holding small parts.

★Do not paint near open flames or any other heat sources.

VOR DER LACKIERUNG

●Vor der Lackierung alle Staub- und Ölreste entfernen. Mit Spülmittel abwaschen, wenn nötig, gründlich spülen und an der Luft trocknen lassen.

●Überflüssigen Klebstoff entfernen, Modell abspachteln und Fugen verschließen. Oberflächen mit Modelliermesser bearbeiten, abspachteln und schmirgeln.

BEMALUNG MIT PINSEL

●Die Bemalung mit einem Pinsel ist die üblichste Methode der Bemalung und besonders der kleinen Einzelheiten. Zusätzlich zu den Farben und Pinseln sind folgende Gegenstände für die Bemalung nützlich: speziell für Farben entwickelter Verdüner, ein leerer Farbtropf oder Farbpalette und ein Wischtuch. Nach dem Bemalen mit einem Tuch Farbe vom Pinsel wischen und Pinsel mit Verdüner reinigen.

●Sorgen Sie bei der Bemalung für ausreichende

Belüftung.

SPRÜH-LACKIERUNG

●Bei der Lackierung von großen Flächen erreicht man mit Sprüh- oder Airbrush-Farben eine glatte Oberfläche. Es wird empfohlen, an einem klaren Tag mit geringer Luftfeuchtigkeit zu arbeiten. Sprüh-Farben, wenn möglich, draußen an einem schattigen und windstillen Platz verarbeiten. Karton, Zeitungen usw. verwenden, um nicht versehentlich andere Flächen mit einzufärben.

●Das zu bearbeitende Objekt auf einen Sockel stellen, sodaß Sie von allen Seiten herankommen. Machen Sie z.B. Verwenden Sie die Doppelklebeband oder Federklammern um Kleinteile zu halten.

★Das Modell nicht in Nähe eines offenen Feuers lackieren.

PREPARATION

●Enlever la poussière et la graisse de toutes les pièces devant être peintes. Si nécessaire, les nettoyer avec un détergent, rincer soigneusement et laisser sécher.

●Éliminer tout excès de colle, mastiquer et poncer les jointures et lignes de moulage (papier abrasif fin).

PEINTURE AU PINCEAU

●C'est la méthode la plus employée, en particulier pour les détails. En plus des peintures et pinceaux classiques, les accessoires suivants sont d'une grande utilité: diluant, pots de peinture vides ou palette et des chiffons. Après exécution, nettoyer le pinceau avec un chiffon et le rincer au diluant.

PEINTURE À LA BOMBE

●Pour peindre de grandes surface, les bombes aérosols ou l'aérographe sont indispensables pour assurer un fini parfait. Installer les pièces à peindre sur un carton, du journal... pour protéger les alentours.

●Les pièces doivent être fixés sur un support afin de pouvoir accéder à toute leur surface. Utiliser l'adhésif double face ou les clips pour maintenir en place des pièces plus petites.

★Ne pas opérer près d'une flamme.

PAINT REQUIRED

TS-33	●ダールレッド / Dull red / Mattrot / Rouge mat
TS-67	●佐世保海軍工廠グレイ(日本海軍) / J/N Gray (Sasebo arsenal) / J/N (XF-77) Gray (Sasebo Arsenal) / Gris Marine Japonaise (arsenal de Sasebo)
TS-69	●リノレウム甲板色 / Linoleum deck brow / (XF-79) Linoleumdeck-Braun / Brun linoleum
X-7	●レッド / Red / Rot / Rouge
X-10	●ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier
X-12	●ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré
X-28	●パークグリーン / Park green / Grasgrün / Vert pré
XF-1	●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat
XF-2	●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat
XF-9	●ハルレッド / Hull red / Rumpf Rot / Rouge brique
XF-12	●明灰白色 / J/N grey / Grau der Japanischen Marine / Gris Aéronavale Japonaise
XF-16	●フラットアルミ / Flat aluminum / Matt Aluminium / Aluminium mat
XF-56	●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé
XF-59	●デザートイエロー / Desert yellow / Sandgelb / Jaune désert
XF-70	●暗緑色2 / Dark Green 2 (J/N) / Dunkel Grün 2 (J/N) / Vert Foncé 2 (Marine Japonaise)

RECOMMENDED TOOLS

接着剤 (プラスチック用) / Cement Kleber Colle
ニッパー / Side cutters Seitenschneider Pince coupante
ナイフ / Modeling knife / Modelliermesser / Couteau de modéliste
ピンセット / Tweezers Pinzette / Précelles

タミヤ瞬間接着剤(ゼリータイプ) / Tamiya CA cement (Gel Type)
Tamiya Cyanacrylat-Kleber (Gelförmig) / Colle cyanoacrylate Tamiya (Type Gel)

ピンバイス(ドリル刃3 / 1.2 / 0.5mm) / Pin vise (3 / 1.2 / 0.5mm drill bit)
Schraubstock (3 / 1.2 / 0.5mm Spiralbohrer) / Outil à percer (3 / 1.2 / 0.5mmmm de diamètre)

注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。また接着剤や塗料は、必ずプラスチック用をお使いください。(別売) ●工具の使用には十分注意してください。特にナイフ、ニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれの注意書きをよく読み、指示に従って正しく使用し、使用するときは換気に十分注意してください。●小さなお子様のいる所での工作はやめてください。小さな部品の飲み込みや、ビニール袋をかぶっての窒息などの危険な状況が考えられます。●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切りやすいので取り扱いには十分注意してください。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths or pull vinyl bags over their heads. ●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling the photo etched parts.

VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben. Fall sein Kind das Modell zusammenbaut, sollte ein beaufsichtigender Erwachsener die Bauanleitung ebenfalls gelesen haben. ●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht. ●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen. Nur Klebstoff und Farben für Plastik verwenden. ●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Kindern darf keine Möglichkeit gegeben werden, irgendwelche Teile in den Mund zu nehmen oder sich Plastiktüten über den Kopf zu ziehen. ●Beim Umgang mit den fotoeätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage. La construction du modèle par un enfant doit s'effectuer sous la surveillance d'un adulte. ●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure. ●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit). Utiliser uniquement une colle et des peintures spéciales pour le polystyrène. ●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête. ●Manipuler les pièces en métal photo-découpé avec précaution pour éviter les blessures.

●組立説明図の中で塗装指示のない部品は船体色 (TS-67) で塗装します。
●When no color is specified, paint parts with hull color (TS-67).
●Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit Rumpf-Farbe bemalen (TS-67).
●Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre les pièces dans la couleur de la caisse (TS-67).

SELECTION

- このキットはフルハル仕様とウォーターライン仕様を選べます。
- Select either full hull display or waterline display model.
- Wählen Sie zwischen dem Komplettschiff oder dem Wasserlinienmodell.
- Choisir entre coque complète ou modèle Waterline.

《フルハル仕様》
Full hull display model



《ウォーターライン仕様》
Waterline display model



ASSEMBLY

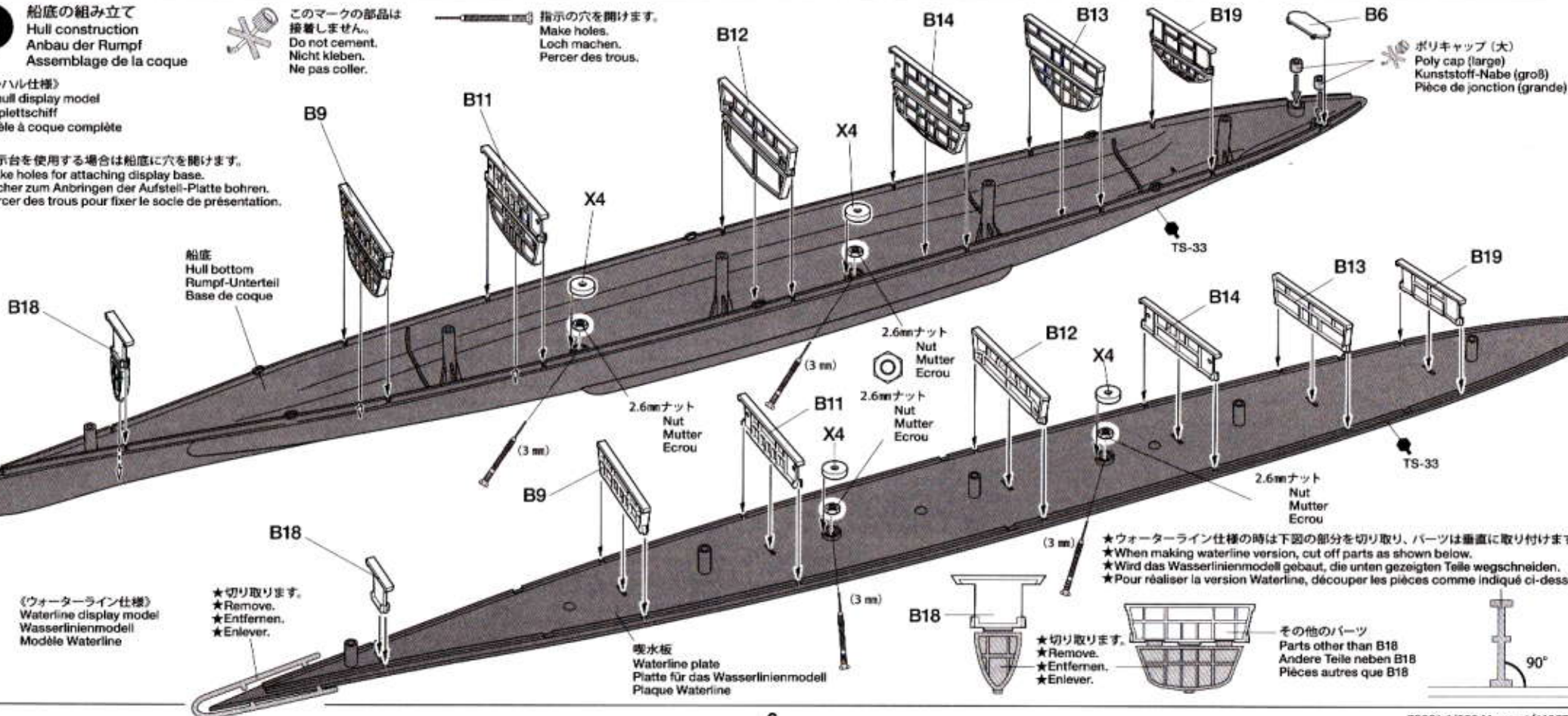
1 船底の組み立て
Hull construction
Anbau der Rumpf
Assemblage de la coque

《フルハル仕様》
Full hull display model
Komplettschiff
Modèle à coque complète

- ★展示台を使用する場合は船底に穴を開けます。
- ★Make holes for attaching display base.
- ★Löcher zum Anbringen der Aufstell-Platte bohren.
- ★Percer des trous pour fixer le socle de présentation.

このマークの部品は
接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

指示の穴を開けます。
Make holes.
Loch machen.
Percer des trous.



ポリキャップ (大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Pièce de jonction (grande)

船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

《ウォーターライン仕様》
Waterline display model
Wasserlinienmodell
Modèle Waterline

喫水板
Waterline plate
Platte für das Wasserlinienmodell
Plaque Waterline

- ★ウォーターライン仕様の際は下記の部分を切り取り、パーツは垂直に取り付けます。
- ★When making waterline version, cut off parts as shown below.
- ★Wird das Wasserlinienmodell gebaut, die unten gezeigten Teile wegschneiden.
- ★Pour réaliser la version Waterline, découper les pièces comme indiqué ci-dessous.

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

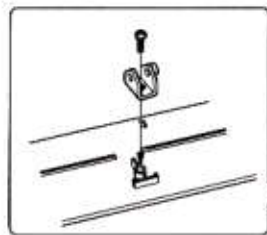
その他のパーツ
Parts other than B18
Andere Teile neben B18
Pièces autres que B18

90°

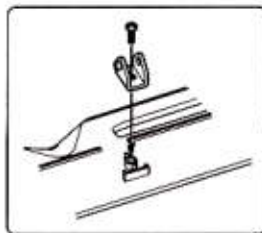
2

左舷と右舷の組み立て

Attaching port and starboard side brackets
Anbringen der seitlichen Backbord- und Steuerbord-Klammern
Fixation des renforts de coque bâbord et tribord.



ブラケット
Bracket
Klammer
Support



1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

★図の部分を切りかきます。
★Cut off.
★Abschneiden.
★Couper.

〔右舷〕
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

A1

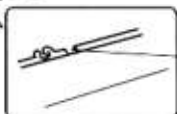
1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

A2

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

★ブラケットは少し動く程度にしめてください。
★Allow a little movement when attaching brackets.
★Beim Anbringen der Klammern etwas Beweglichkeit zulassen.
★Laisser un peu de mobilité en fixant les renforts.

〔左舷〕
Port side
Backbordseite
Bâbord



★図の部分を切りかきます。
★Cut off.
★Abschneiden.
★Couper.

3

船体の組み立て

Hull assembly
Rumpf-Zusammenbau
Assemblage de la coque

右舷
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

1.2×4mmビス
Screw
Schraube
Vis

左舷
Port side
Backbordseite
Bâbord

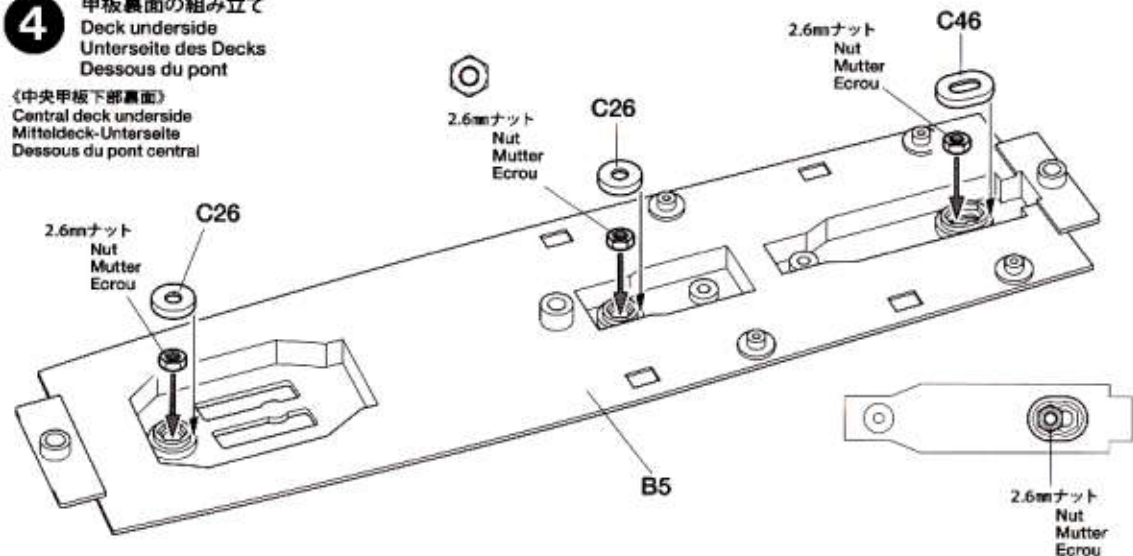
船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque

★船体は船底と位置を合わせて接着します。
★Match both sides with the hull bottom when attaching.
★Beide Seiten beim Anbringen mit dem Rumpfboden zusammenpassen.
★Ajuster les flancs avec le fond de la coque.

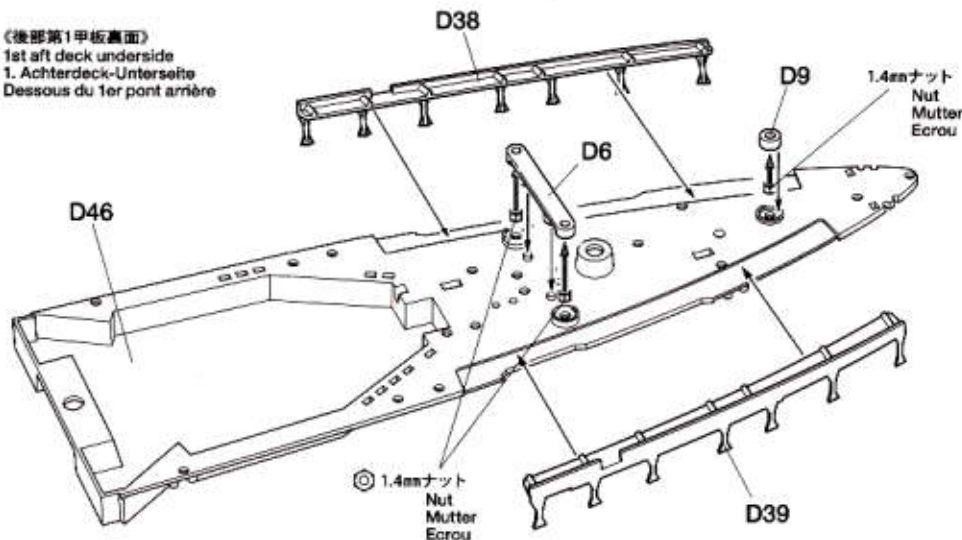
★左舷側も同様にビス止めしてください。
★Attach port side in the same way as starboard side.
★Die Backbordseite auf gleiche Weise wie die Steuerbordseite anbringen.
★Fixer à bâbord comme à tribord.?

4 甲板裏面の組み立て
Deck underside
Unterseite des Decks
Dessous du pont

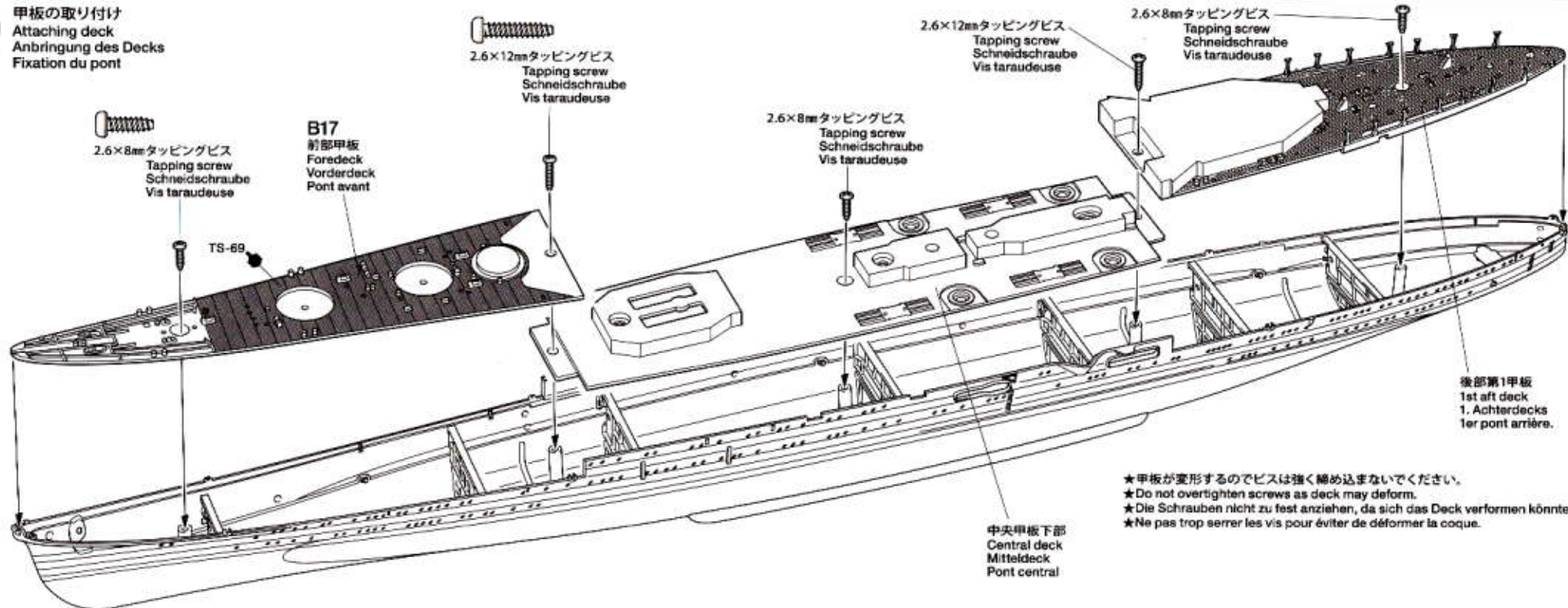
《中央甲板下部裏面》
Central deck underside
Mitteldeck-Unterseite
Dessous du pont central



《後部第1甲板裏面》
1st aft deck underside
1. Achterdeck-Unterseite
Dessous du 1er pont arrière



5 甲板の取り付け
Attaching deck
Anbringung des Decks
Fixation du pont

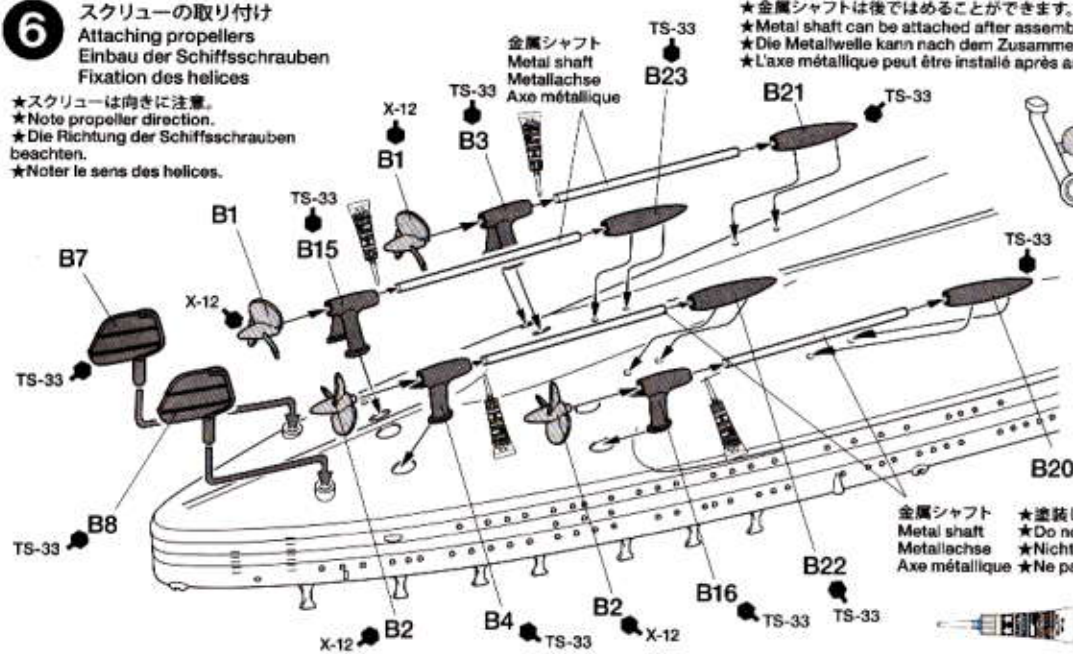


★甲板が変形するのでビスは強く締め込まないでください。
★Do not overtighten screws as deck may deform.
★Die Schrauben nicht zu fest anziehen, da sich das Deck verformen könnte.
★Ne pas trop serrer les vis pour éviter de déformer la coque.

6

スクリューの取り付け
Attaching propellers
Einbau der Schiffsschrauben
Fixation des hélices

★スクリューは向きに注意。
★Note propeller direction.
★Die Richtung der Schiffsschrauben beachten.
★Noter le sens des hélices.



★金属シャフトは後ではめることができます。
★Metal shaft can be attached after assembly.
★Die Metallwelle kann nach dem Zusammenbau angebracht werden.
★L'axe métallique peut être installée après assemblage.

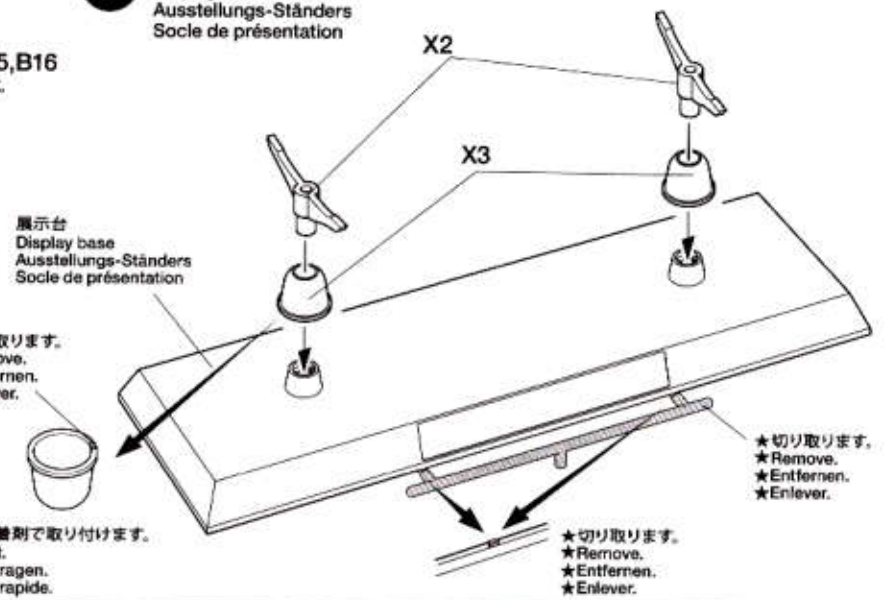
金属シャフト
Metal shaft
Metallachse
Axe métallique

★塗装しません。
★Do not paint.
★Nicht bemalen.
★Ne pas peindre.

指示の部品を瞬間接着剤で取り付けます。
Apply instant cement.
Sekundenkleber auftragen.
Appliquer de la colle rapide.

7

《展示台》
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation



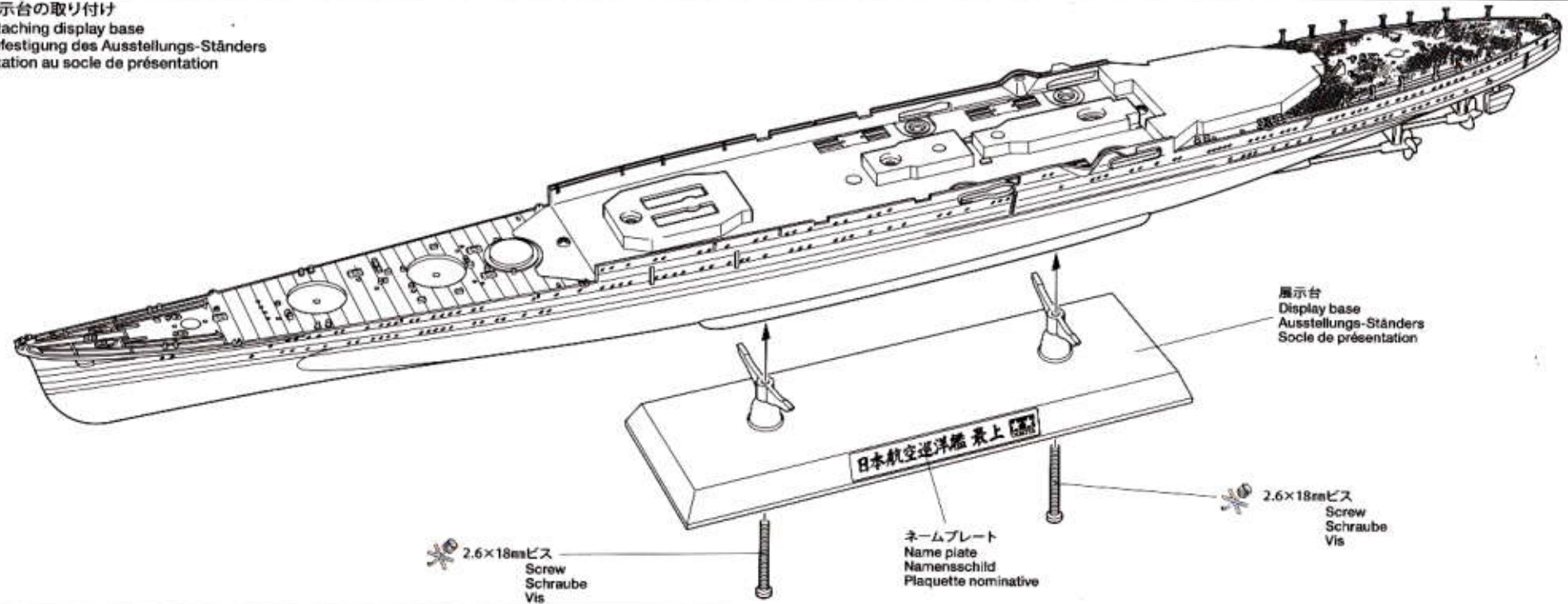
★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

8

展示台の取り付け
Attaching display base
Befestigung des Ausstellungs-Ständers
Fixation au socle de présentation



2.6×18mmビス
Screw
Schraube
Vis

ネームプレート
Name plate
Namensschild
Plaque nominative

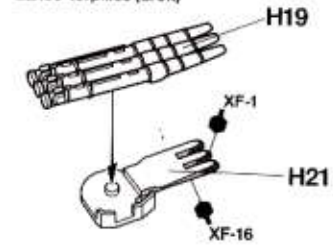
2.6×18mmビス
Screw
Schraube
Vis

展示台
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation

9

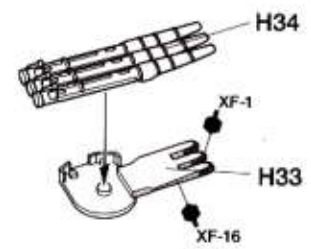
魚雷発射管の取り付けと後部第1甲板の組み立て
 Attaching torpedo launcher and assembling 1st aft deck
 Befestigen des Torpedo-Abschussrohrs und Zusammenbau des 1. Achterdecks.
 Installation des lance-torpilles et assemblage du 1er pont arrière.

《魚雷発射管右》
 Torpedo launcher (right)
 Torpedo-Abschussrohr (rechts)
 Lance-torpilles (droit)



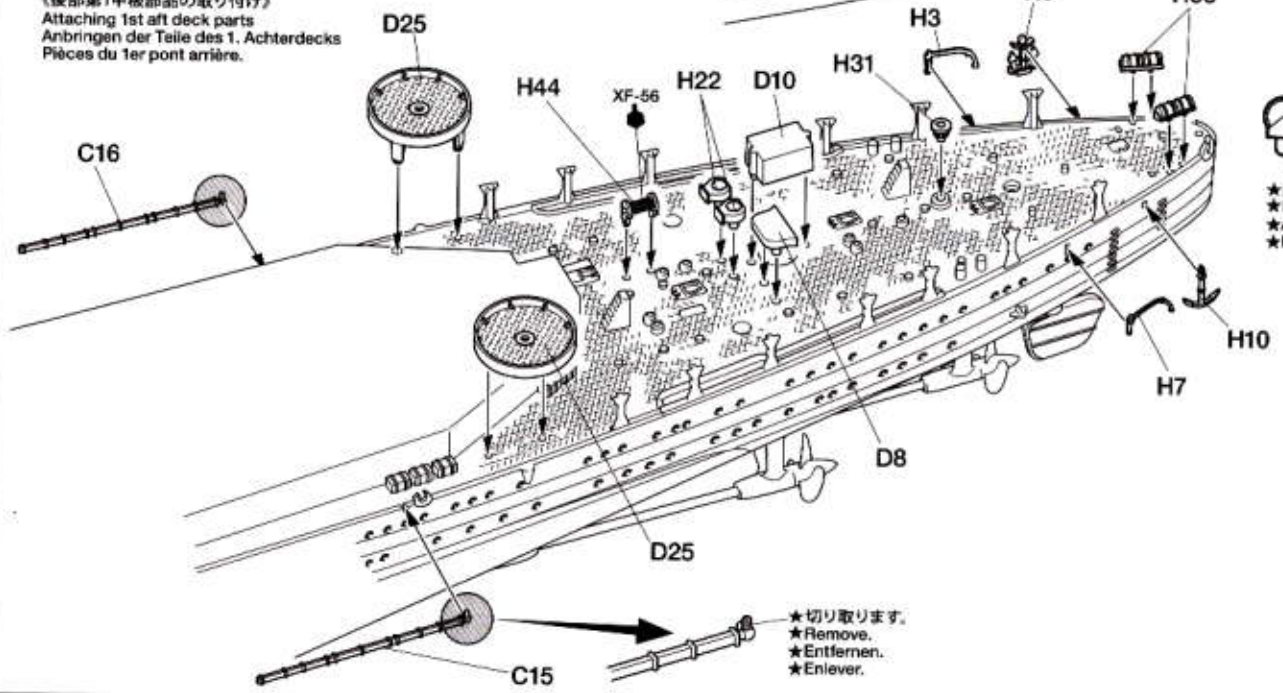
★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

《魚雷発射管左》
 Torpedo launcher (left)
 Torpedo-Abschussrohr (links)
 Lance-torpilles (gauche)



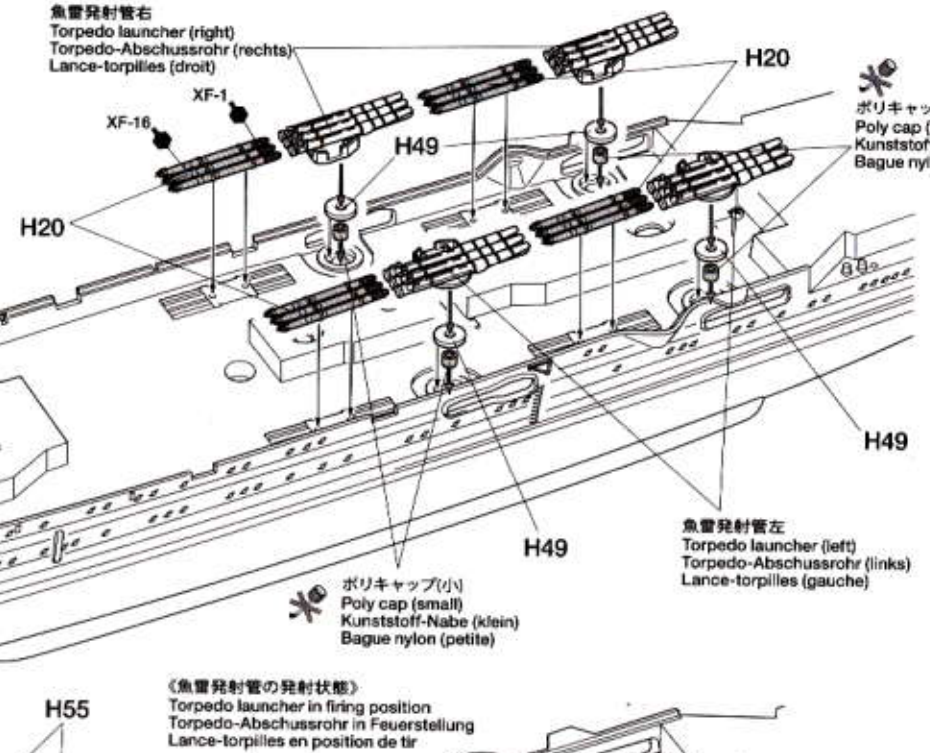
★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

《後部第1甲板部品の取り付け》
 Attaching 1st aft deck parts
 Anbringen der Teile des 1. Achterdecks
 Pièces du 1er pont arrière.



★切り取ります。
 ★Remove.
 ★Entfernen.
 ★Enlever.

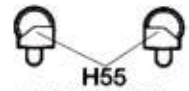
魚雷発射管右
 Torpedo launcher (right)
 Torpedo-Abschussrohr (rechts)
 Lance-torpilles (droit)



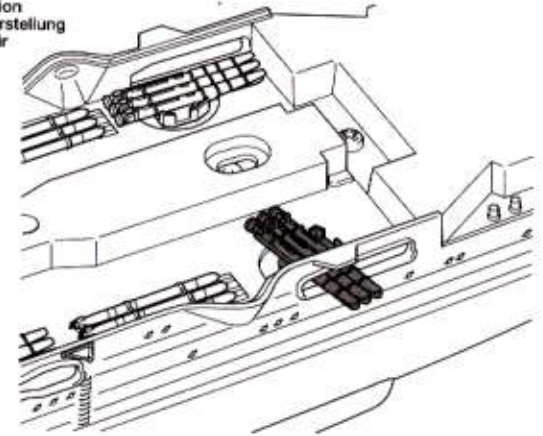
ポリキャップ(小)
 Poly cap (small)
 Kunststoff-Nabe (klein)
 Bague nylon (petite)

ポリキャップ(小)
 Poly cap (small)
 Kunststoff-Nabe (klein)
 Bague nylon (petite)

《魚雷発射管の発射状態》
 Torpedo launcher in firing position
 Torpedo-Abschussrohr in Feuerstellung
 Lance-torpilles en position de tir



★向きに注意します。
 ★Note direction.
 ★Auf richtige Platzierung achten.
 ★Noter le sens.

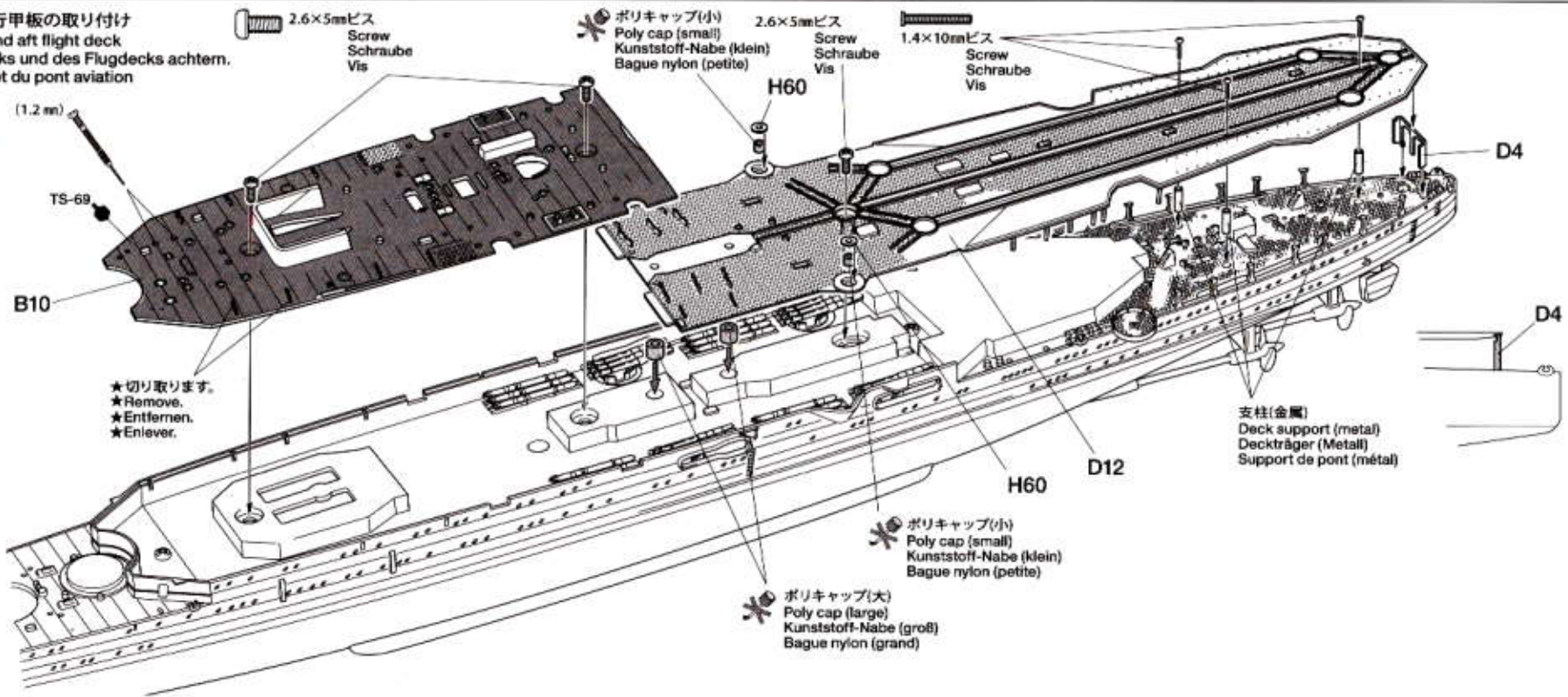


★最上は90式61cm3連装発射管に改造を加え、93式酸素魚雷を発射可能にしていた。この発射管を4基搭載し魚雷を24本装備していた。魚雷は次弾を16.6秒で装填できるほか、炸薬量500kg、速力は49ノットで22,000m、36ノットなら40,000mと当時の世界水準を遙かに超えた魚雷であった。
 ★Mogami had four Type 90 61cm triple torpedo launchers and twenty four Type 93 oxygen torpedoes. Each torpedo could be loaded in 16.6 seconds and had 500kg explosive charges with a range of 22,000m and 40,000m at 49 and 36 knots respectively, which bettered the world standard at that time.
 ★Die Mogami besaß vier Typ 90 61cm Dreifach-Torpedo-Abschussrohre und vierundzwanzig Sauerstoff-Torpedos Typ 93. Jeder Torpedo konnte binnen 16,6 Sekunden geladen werden und trug 500kg Sprengstoff bei einer Reichweite von 22.000m und 40.000m und 49 bzw. 36 Knoten Geschwindigkeit, was damals den Weltstandard übertraf.
 ★Le Mogami avait quatre lance-torpilles triples de 61cm Type 90 et vingt-quatre torpilles à oxygène Type 93. Chaque torpille pouvait être chargée en 16,6 secondes. La charge explosive pesait 500kg et la portée était de 22.000m à 49 nœuds et 40.000m à 36 nœuds, ce qui en faisait une des meilleures de l'époque.

10

上部中央甲板と後部飛行甲板の取り付け
Attaching central deck and aft flight deck
Befestigen des Mitteldecks und des Flugdecks achtern.
Fixation du pont central et du pont aviation

★図の部分に裏側からAの印がある部分に1.2mmの穴を開けます。
★Make 1.2mm holes on A marked points on the underside of the central deck.
★An der Unterseite des Mitteldecks an den mit A markierten Punkten 1,2mm Löcher bohren.
★Percer des trous de 1,2mm aux emplacements marqués A sur le dessous du pont central.



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

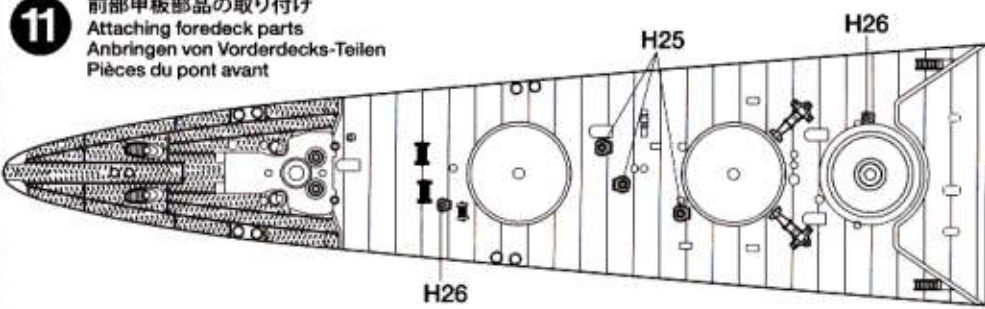
ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

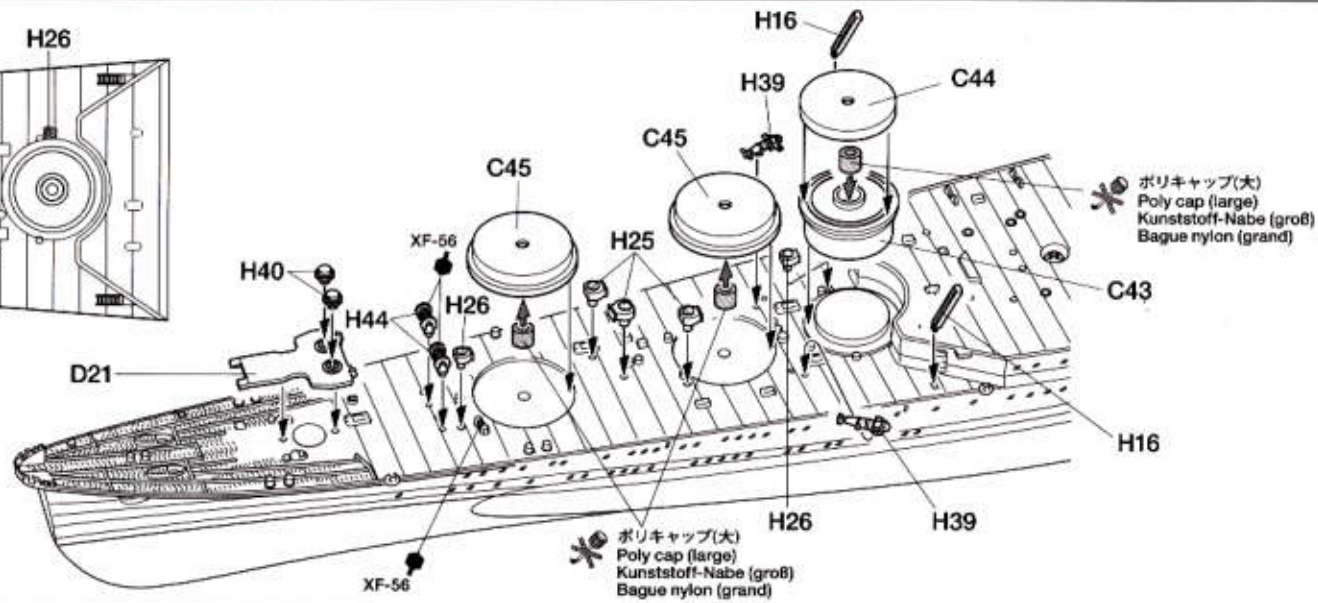
支柱(金属)
Deck support (metal)
Deckträger (Metall)
Support de pont (métal)

11

前部甲板部品の取り付け
Attaching foredeck parts
Anbringen von Vorderdecks-Teilen
Pièces du pont avant



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

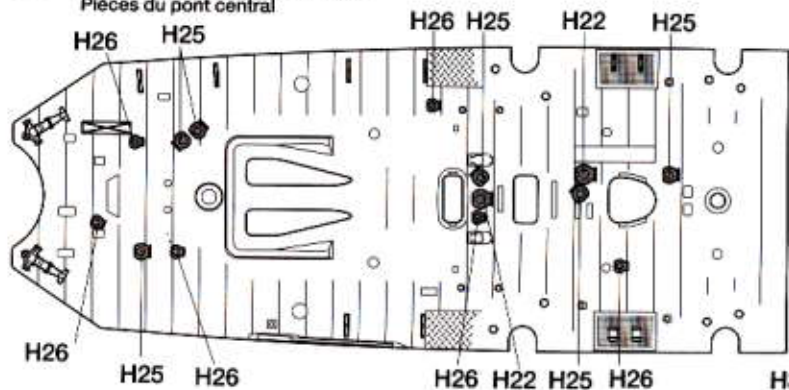


ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

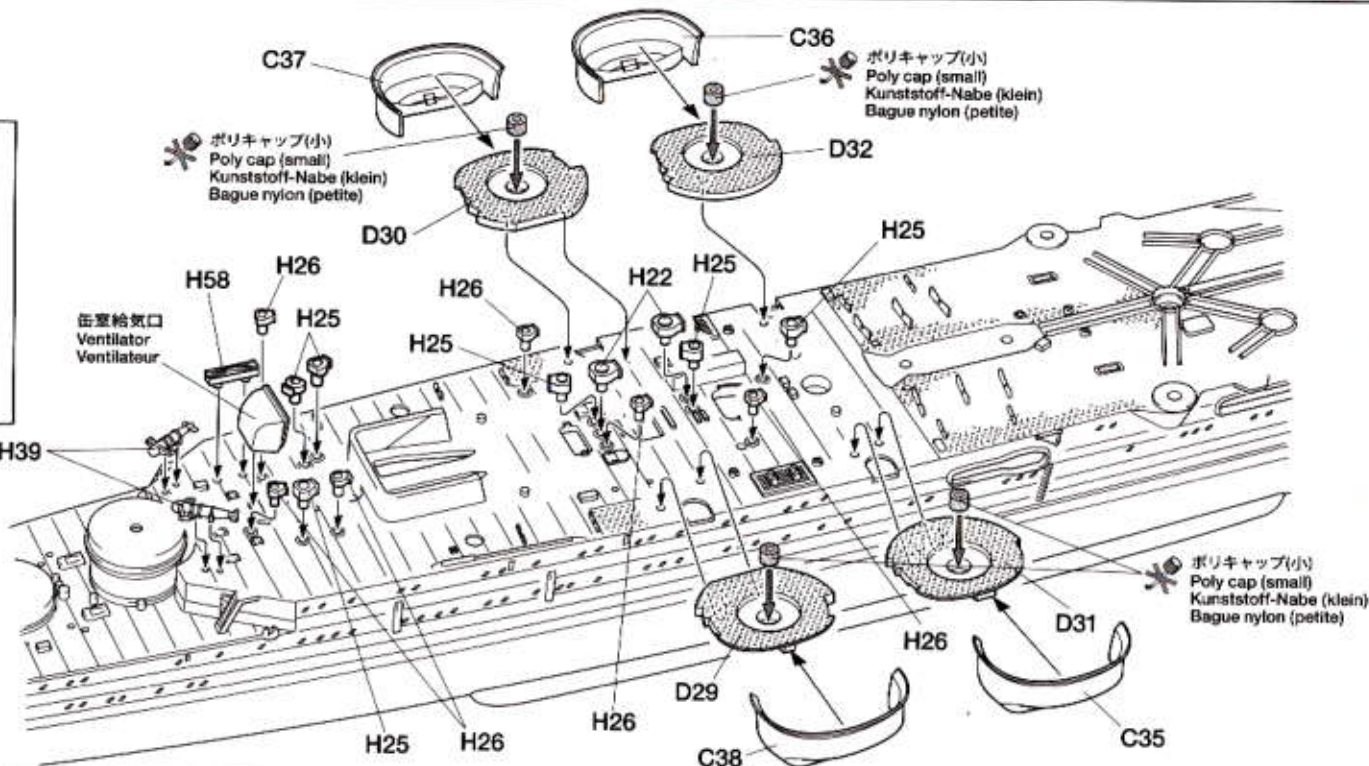
ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

12

中央甲板部品の取り付け
Attaching central deck parts
Anbringen von Mitteldecks-Teilen
Pièces du pont central



《缶室給気口》
Ventilator
Ventilateur

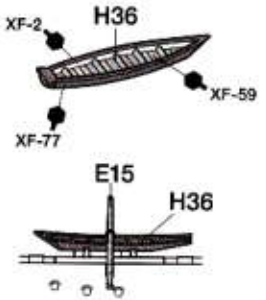
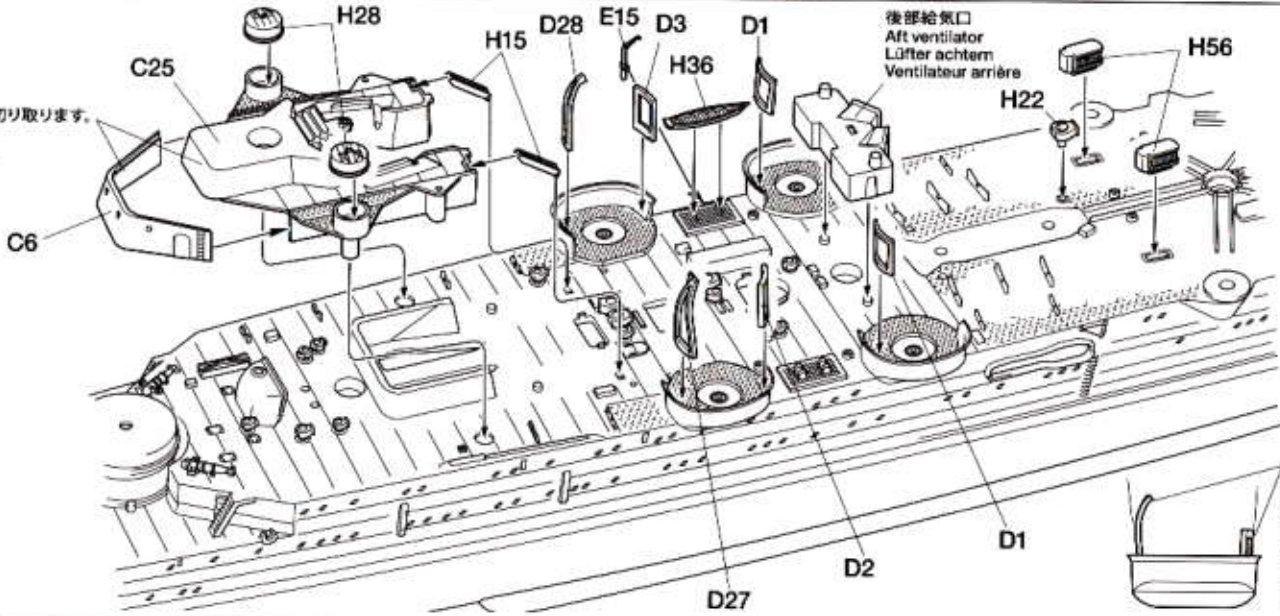
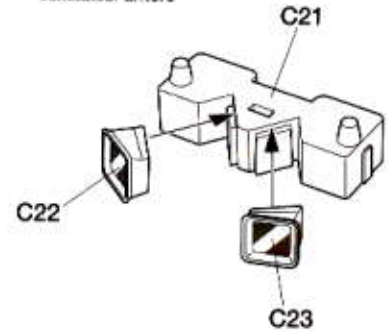


13

艦橋基部の取り付け
Attaching bridge base
Befestigen der Brückenbasis
Fixation de la base de passerelle

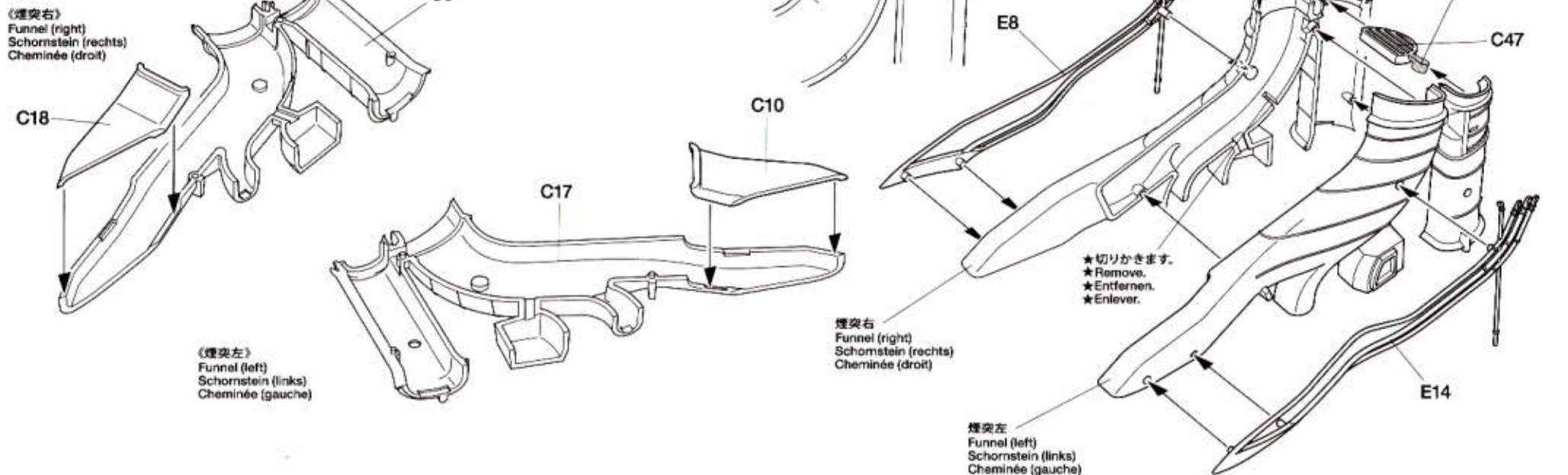
《後部給気口》
Aft ventilator
Lüfter achtern
Ventilateur arrière

- ★部品の切り出し口はきれいに切り取ります。
- ★Remove excess plastic.
- ★Überflüssiges Teil entfernen.
- ★Ebavurer.



- ★D1, D2, D3, D27, D28は図のように外側に広がるように取り付けます。
- ★Attach D1, D2, D3, D27, and D28 to face outward as shown.
- ★D1, D2, D3, D27 und D28 so anbringen, dass sie wie abgebildet nach außen schauen.
- ★Fixer D1, D2, D3, D27 et D28 orientés vers l'extérieur comme montré.

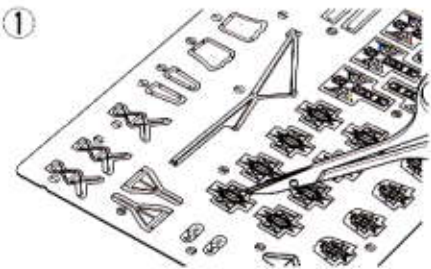
14 煙突の組み立て1
Funnel 1
Schornstein 1
Cheminée 1



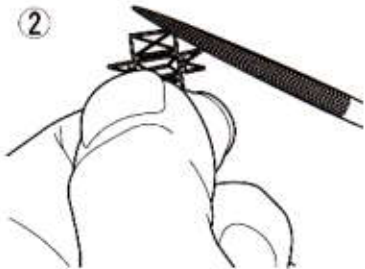
15 煙突の組み立て2
Funnel 2
Schornstein 2
Cheminée 2



《エッチングパーツの加工方法》
Photo-etched parts
Fotogeätzte Teile
Pièces photo-découpées



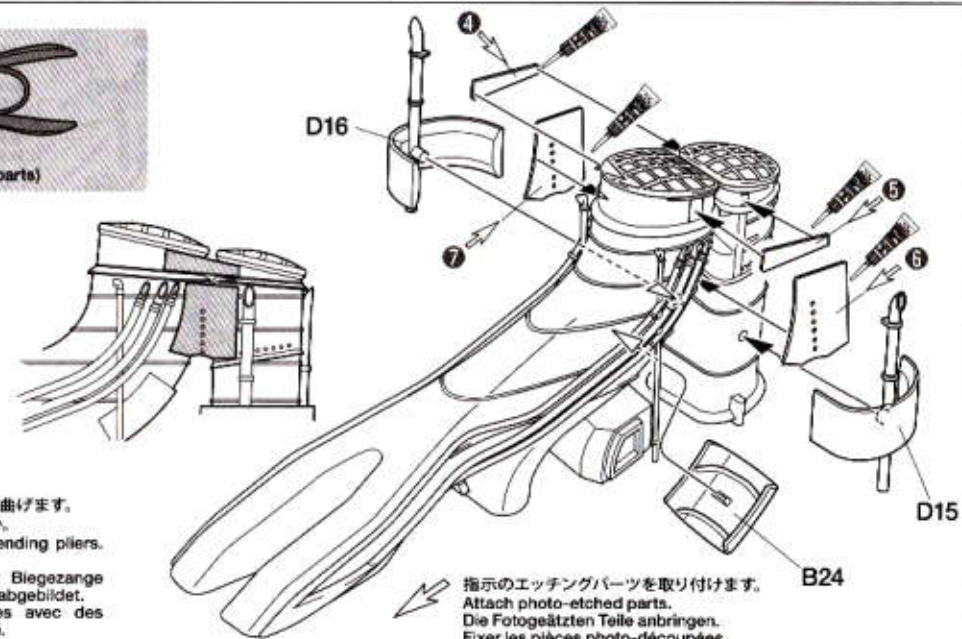
★エッチングパーツを丁寧に切り離します。
★Carefully cut out photo-etched parts.
★Die fotogeätzten Teile vorsichtig.
★Découper soigneusement les pièces en photo-découpe.



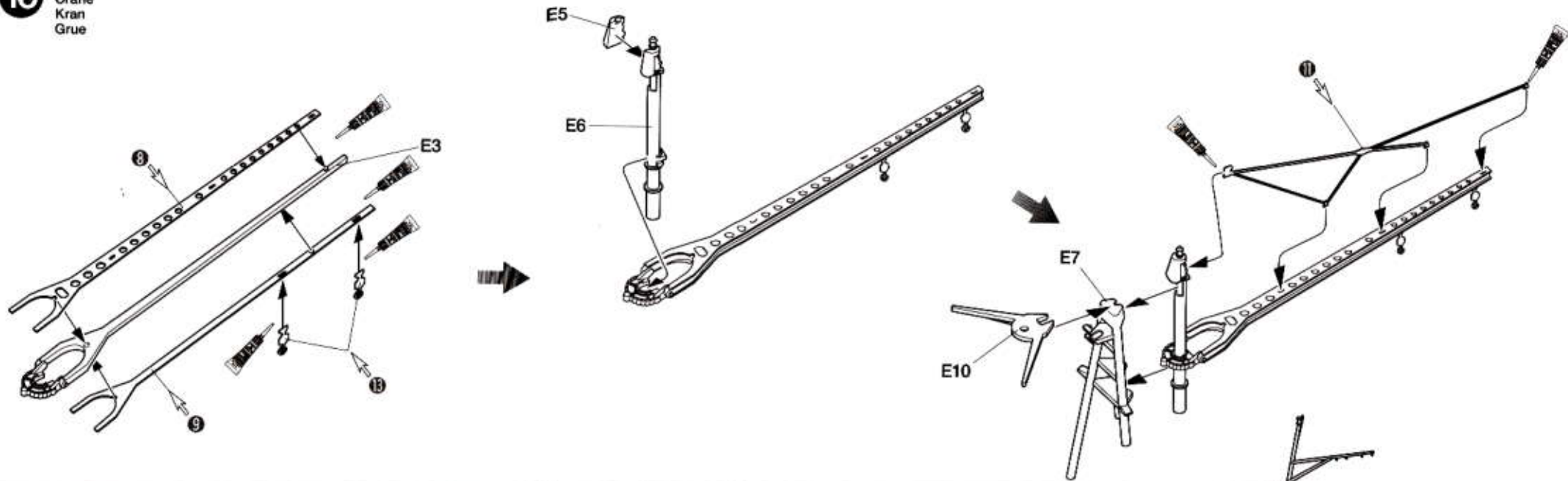
★ヤスリで余分な切り口をきれいになります。
★Carefully remove any excess.
★Alle Überstände vorsichtig.
★Éliminer soigneusement les excédents.



★エッチングベンダーで図のように折り曲げます。
折り曲げる時は、丁寧に曲げてください。
★Bend photo-etched parts using bending pliers.
Carefully bend as shown.
★Die fotogeätzten Teile mit einer Biegezange zurechtbiegen. Vorsichtig biegen wie abgebildet.
★Plier les pièces photo-découpées avec des pinces. Plier avec soin comme montré.

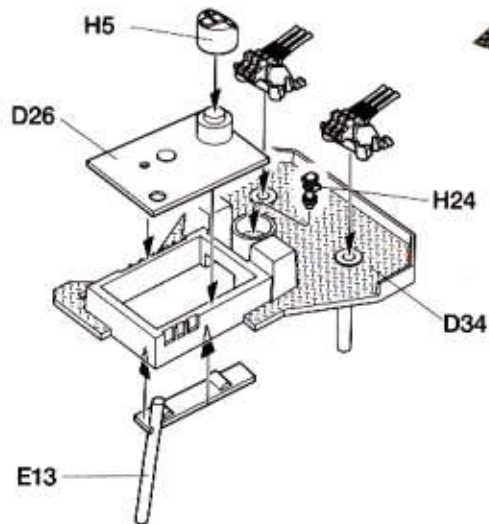


16 クレーンの組み立て
Crane
Kran
Grue

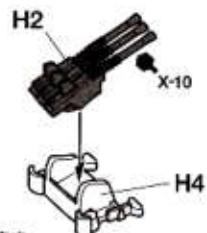


17 後部艦橋の組み立て
Aft bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière

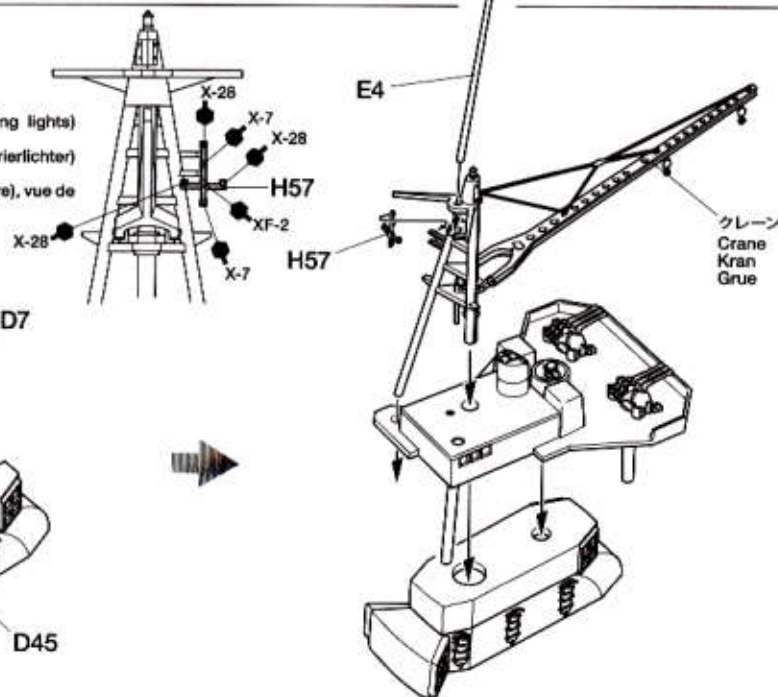
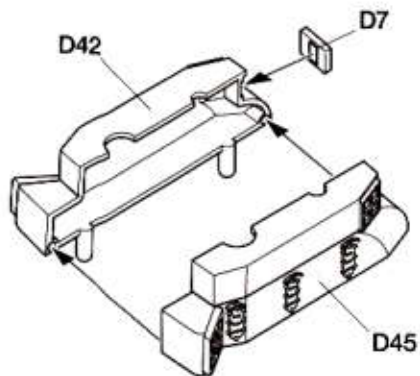
(25mm三連装機銃)
Triple 25mm guns
25mm Dreifach-Kanonen
Cansons triples 25mm



★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



★H57(番号燈)を後から見た取り付け図です。
★Attachment position of H57 (maneuvering lights) seen from stern.
★Befestigungsposition von H57 (Manövrierlichter) vom Vordersteven aus gesehen.
★Point de fixation de H57 (feux de manoeuvre), vue de la proue.



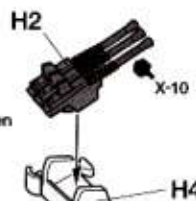
クレーン
Crane
Kran
Grue

18

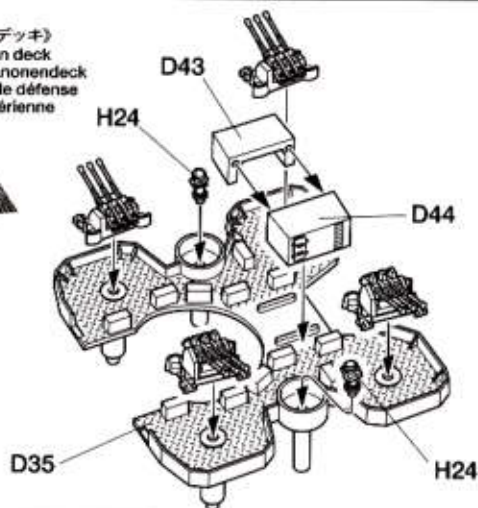
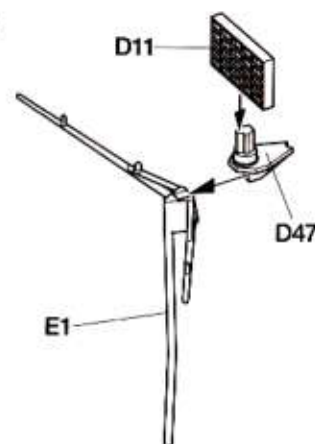
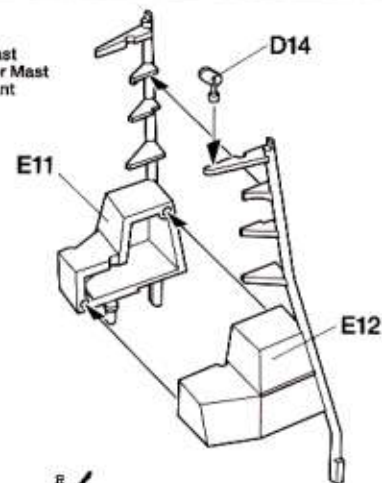
対空デッキの組み立て

AA gun deck
AA Kanonendeck
Pont de défense anti-aérienne《4.5m測距儀》
4.5m Range finder
4,5m Entfernungsmesser
Télémetre 4,5m

★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

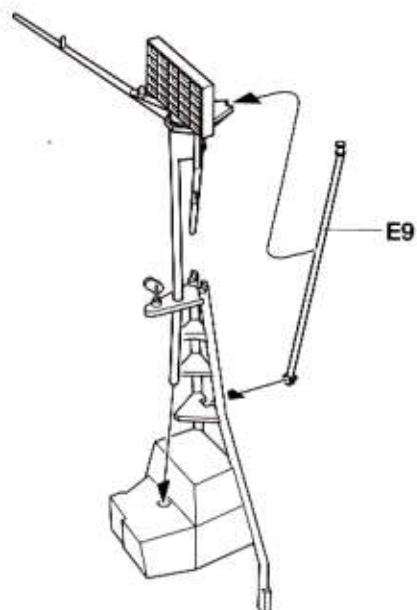
《25mm三連装機銃》
Triple 25mm guns
25mm Dreifach-Kanonen
Canons triples 25mm

★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.

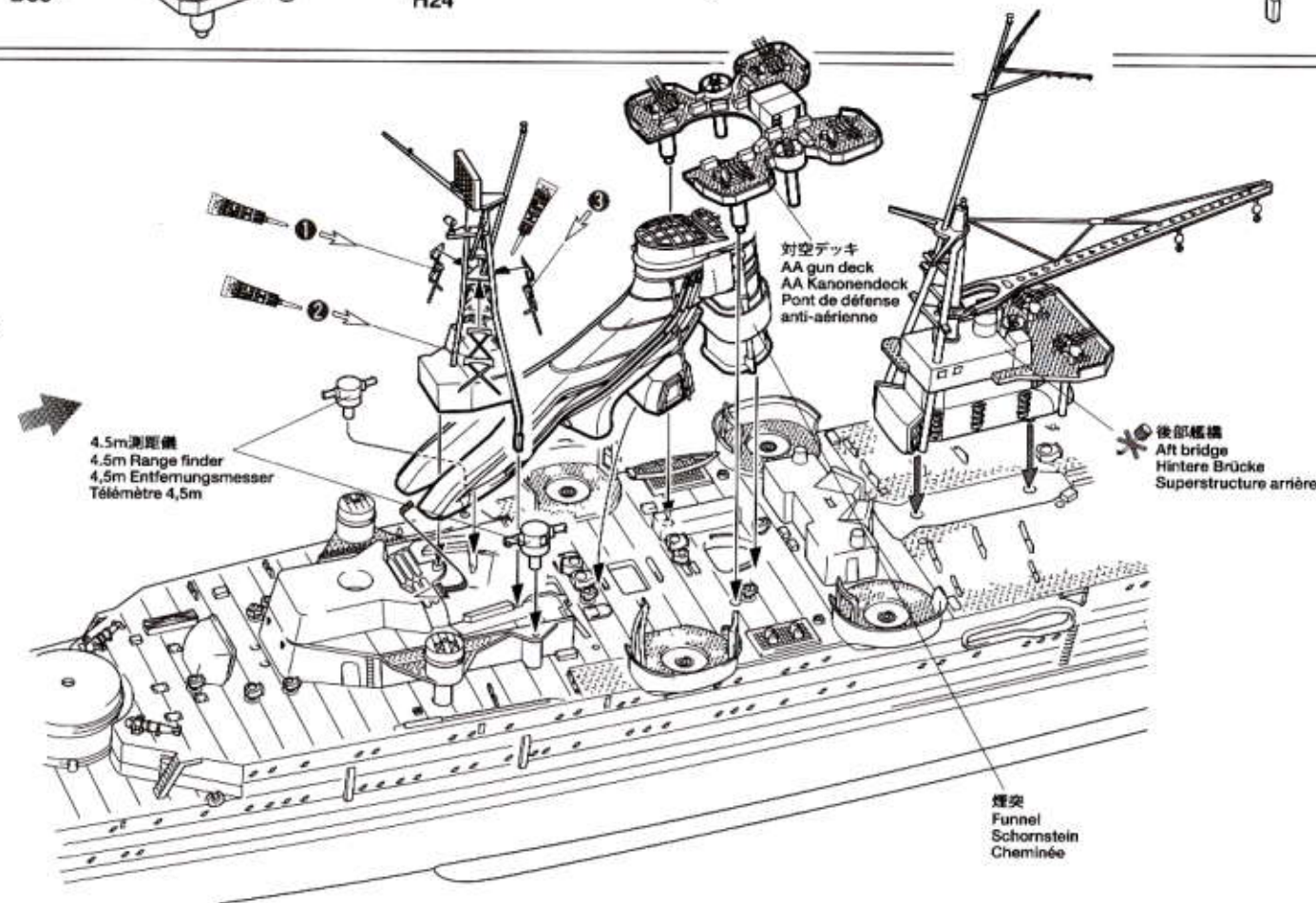
《対空デッキ》
AA gun deck
AA Kanonendeck
Pont de défense
anti-aérienne《ヤード》
Yard
Rahe
Cour《前桅》
Fore mast
Vorderer Mast
Mât avant

19

煙突の取り付け

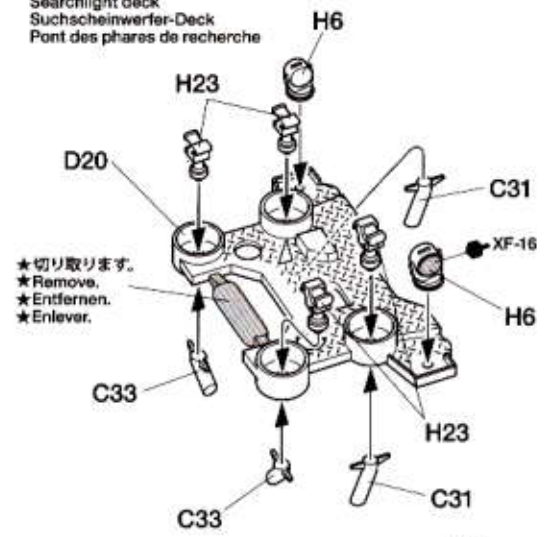
Attaching funnel
Befestigen des Schornsteins
Fixation de la cheminée《メインマスト》
Main mast
Hauptmast
Mât principal

★エッチングパーツはこの面が平らになるように
に取り付けます。パーツには表裏があるので注意し
てください。
★Attach photo-etched part ensuring this surface
is flat as shown.
★Beim Anbringen der fotogeätzten Teile darauf
achten, dass diese Oberfläche so eben wie
abgebildet ist.
★Fixer les pièces photo-découpées en s'assurant
que la surface est plane comme montré.



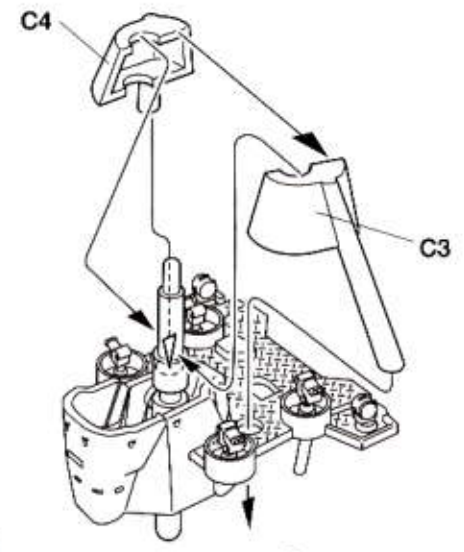
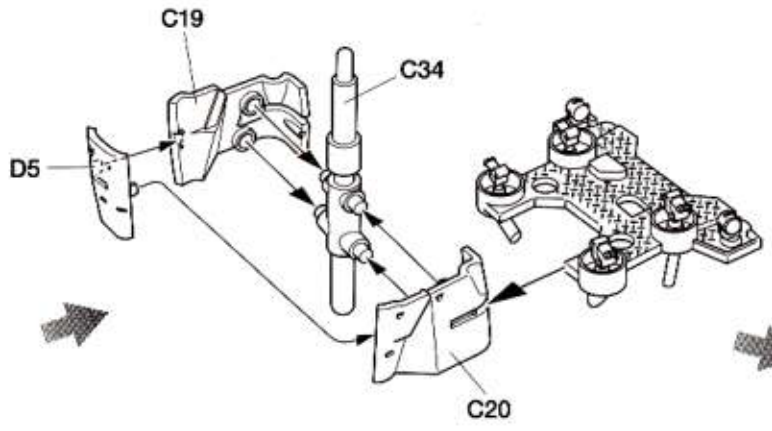
艦橋の組み立て
Bridge
Brücke
Superstructure

《探照燈デッキ》
Searchlight deck
Suchscheinwerfer-Deck
Pont des phares de recherche

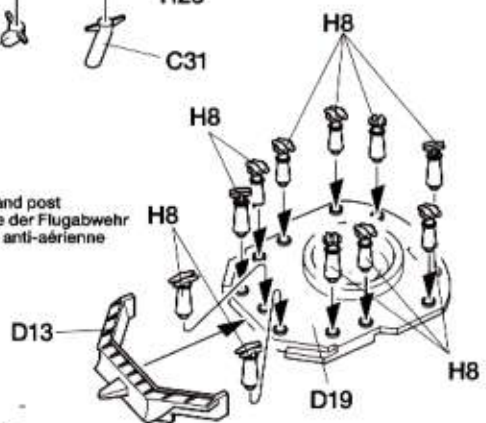


★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

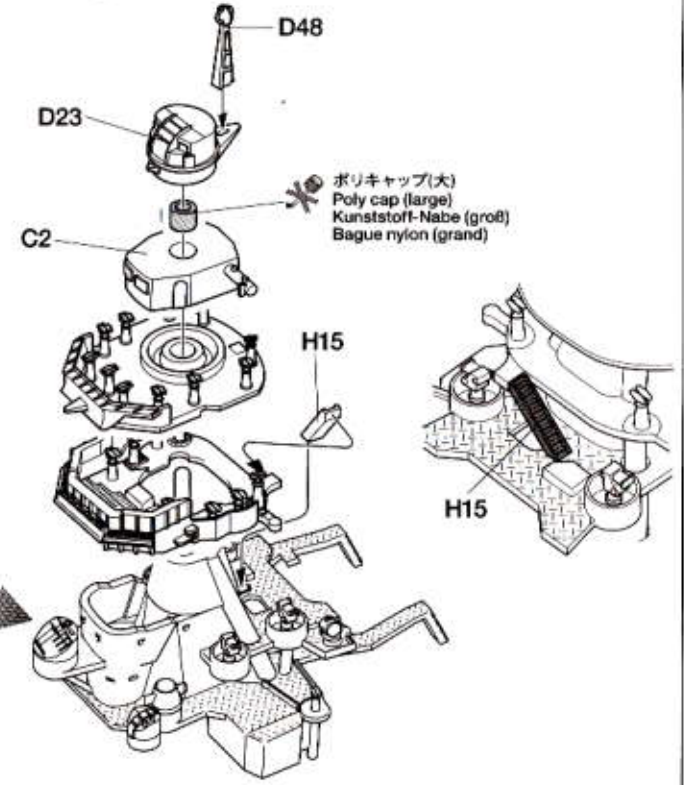
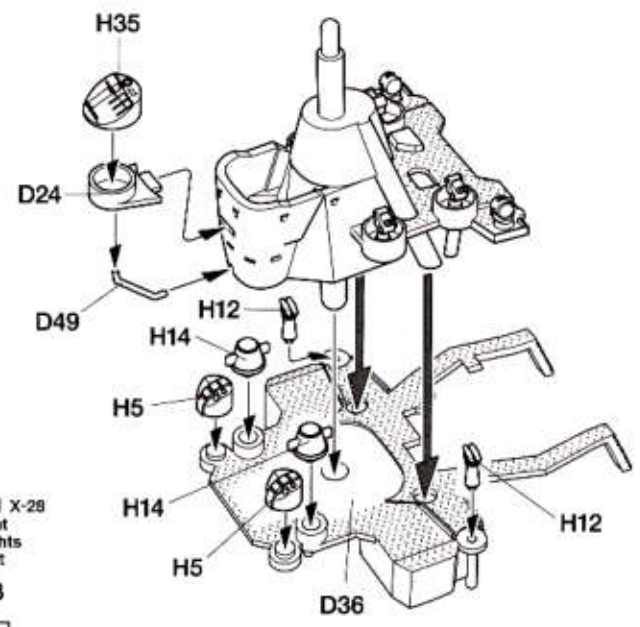
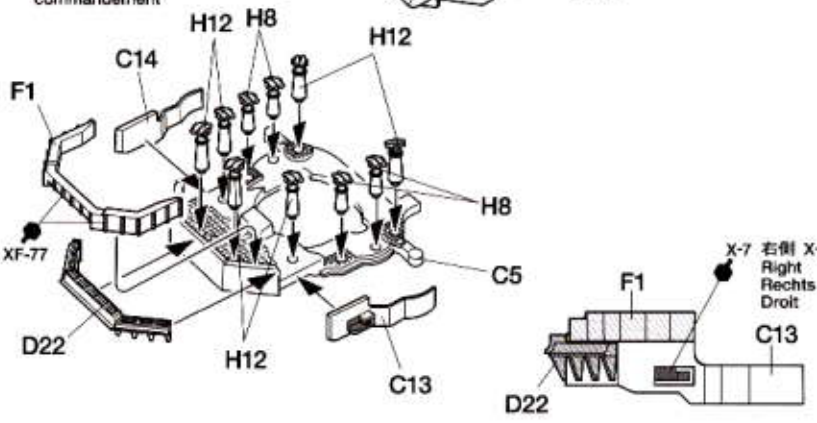
C33



《防空指揮所》
Air defence command post
Kommandozentrale der Flugabwehr
Central de défense anti-aérienne



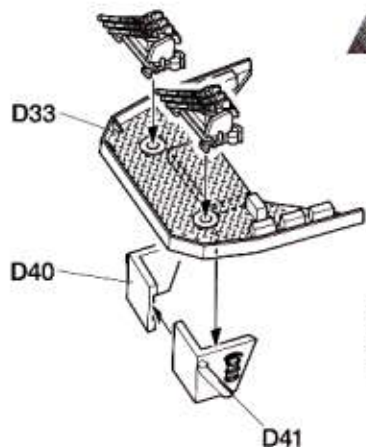
《羅針橋》
Bridge deck
Brückendeck
Passerelle de commandement



21

艦橋の取り付け
Attaching bridge
Brücke-Einbau
Fixation de la superstructure

《前部対空デッキ》
Forward AA gun deck
Nach vorne gerichtetes AA Kanonendeck
Pont de défense anti-aérienne avant



《25mm三連装機銃》
Triple 25mm guns
25mm Dreifach-Kanonen
Canons triples 25mm

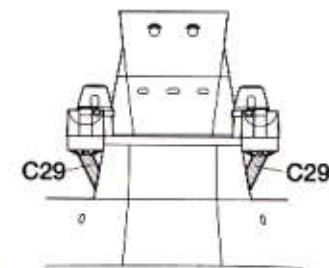
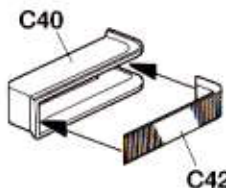


★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

《中央給気口右》
Central ventilator (right)
Zentraler Lüfter (rechts)
Ventilateur central (droit)



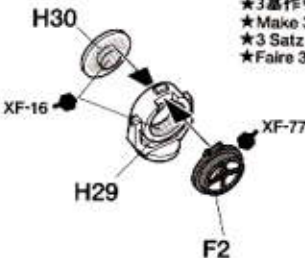
《中央給気口左》
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)



★中央給気口右も同様に取付けます。
★Attach central ventilator (right) in the same manner.
★Den zentralen Lüfter (rechts) auf gleiche Weise anbringen.
★Fixer le ventilateur central de la même manière.

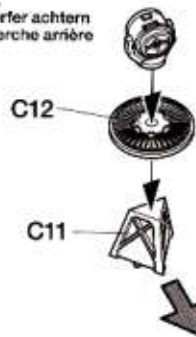
前部対空デッキ
Forward AA gun deck
Nach vorne gerichtetes
AA Kanonendeck
Pont de défense
anti-aérienne avant

《110cm探照燈》
110cm searchlight
110cm Suchscheinwerfer
Phare de recherche 110cm

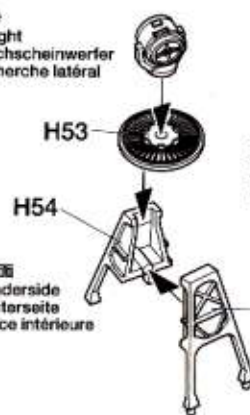


★3基作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

《後部探照燈》
Aft searchlight
Suchscheinwerfer achtern
Phare de recherche arrière



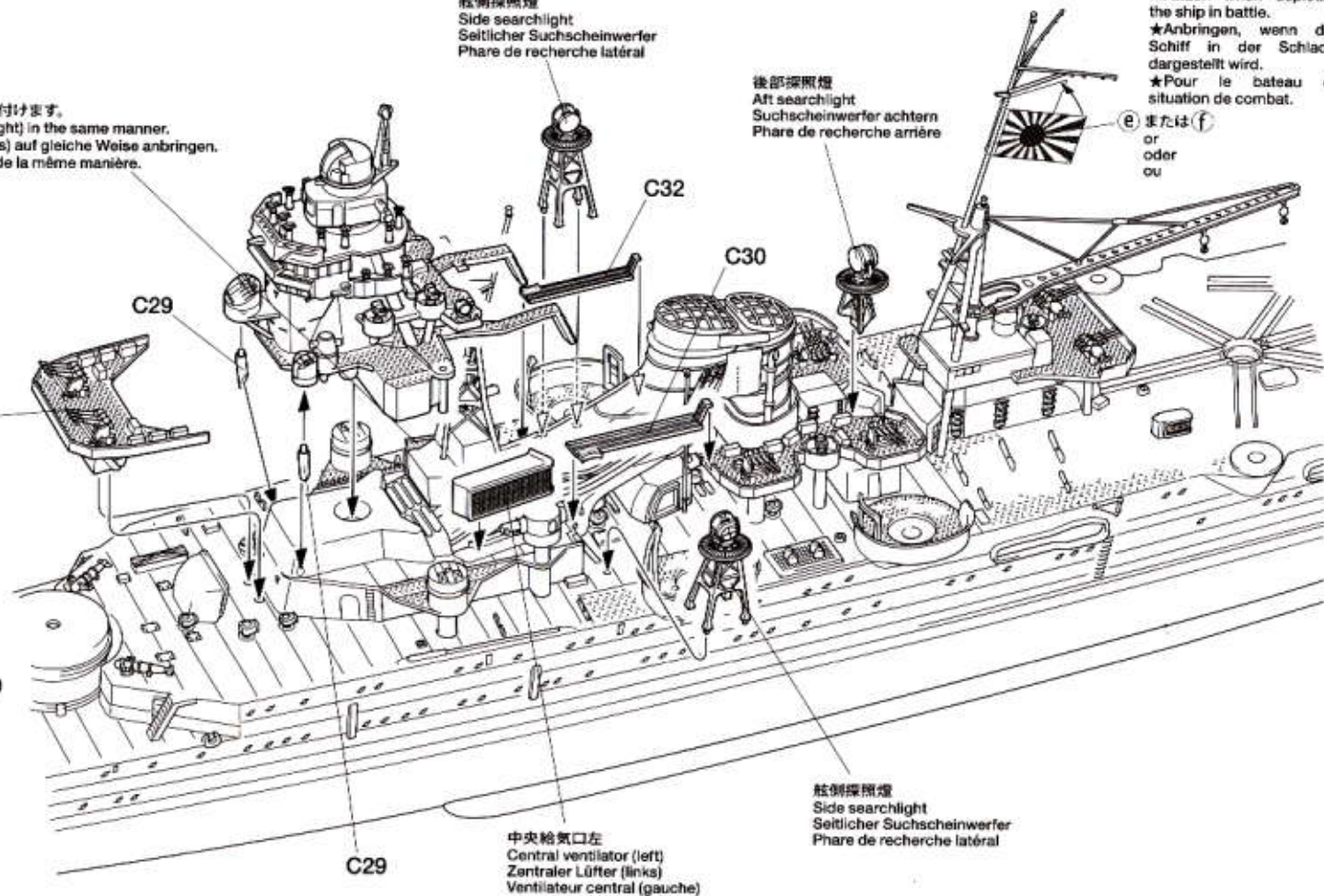
《舷側探照燈》
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral



★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

舷側探照燈
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral

後部探照燈
Aft searchlight
Suchscheinwerfer achtern
Phare de recherche arrière



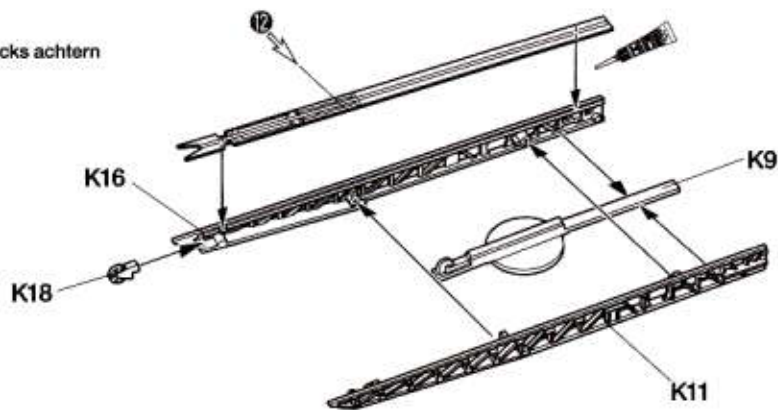
★戦闘時に取付けます。
★Attach when depicting the ship in battle.
★Anbringen, wenn das Schiff in der Schlacht dargestellt wird.
★Pour le bateau en situation de combat.

中央給気口左
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)

舷側探照燈
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral

後部飛行甲板部品の取り付け
 Attaching aft flight deck parts
 Anbringen der Teile des Flugdecks achtern
 Pièces du pont aviation

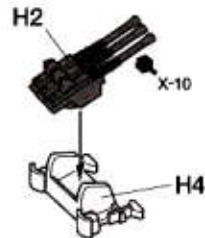
(カタバルト)
 Catapult
 Katapult
 Catapulte



★2基作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

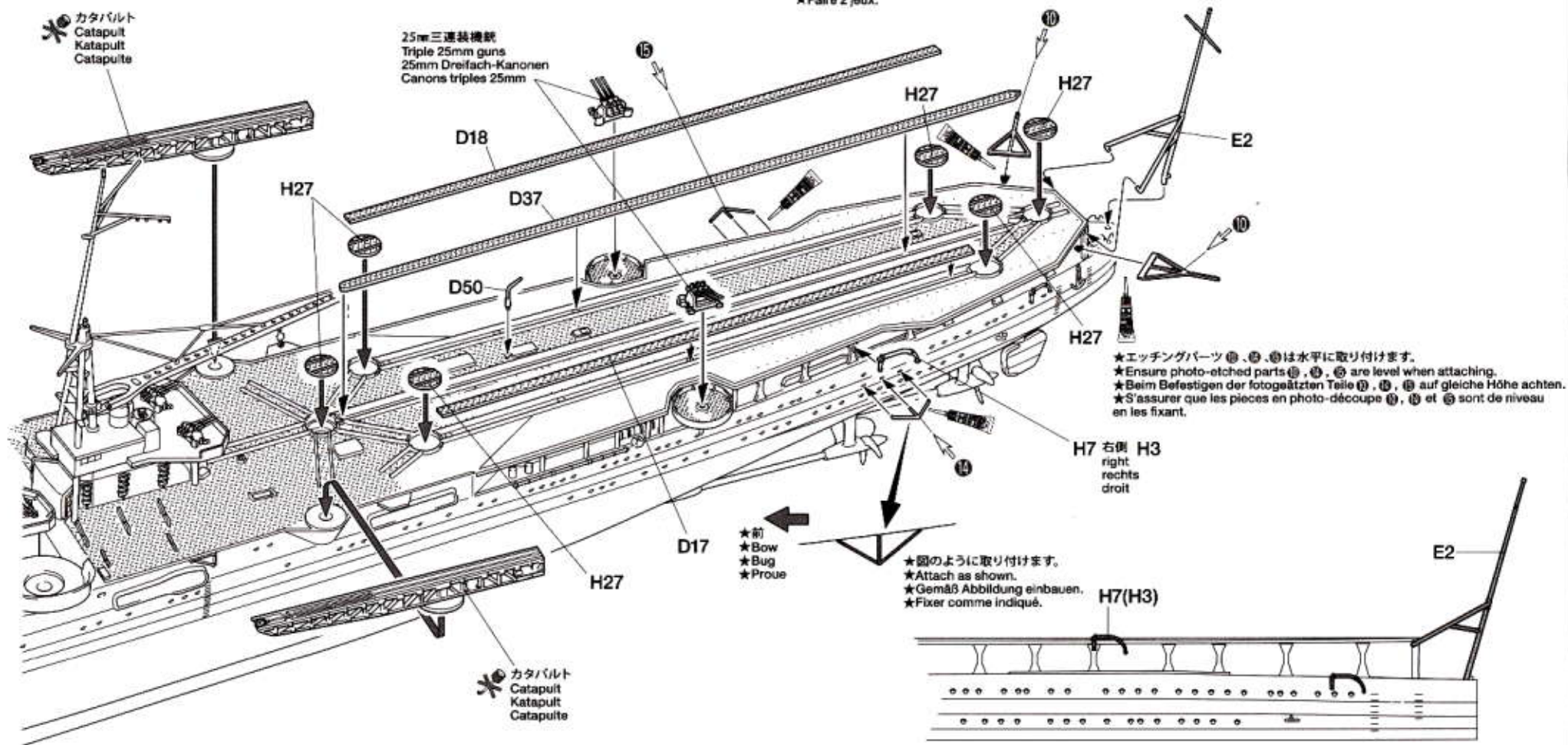
(25mm三連装機銃)
 Triple 25mm guns
 25mm Dreifach-Kanonen
 Canons triples 25mm

★2基作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.



カタバルト
 Catapult
 Katapult
 Catapulte

25mm三連装機銃
 Triple 25mm guns
 25mm Dreifach-Kanonen
 Canons triples 25mm



★エッチングパーツ ⑩, ⑪, ⑫ は水平に取り付けます。
 ★Ensure photo-etched parts ⑩, ⑪, ⑫ are level when attaching.
 ★Beim Befestigen der fotoeätzten Teile ⑩, ⑪, ⑫ auf gleiche Höhe achten.
 ★S'assurer que les pièces en photo-découpe ⑩, ⑪ et ⑫ sont de niveau en les fixant.

H7 右側 H3
 right
 rechts
 droit

★前
 ★Bow
 ★Bug
 ★Proue

★図のように取り付けます。
 ★Attach as shown.
 ★Gemäß Abbildung einbauen.
 ★Fixer comme indiqué.

23

砲塔の組み立て

Turrets
Türme
Tourelles

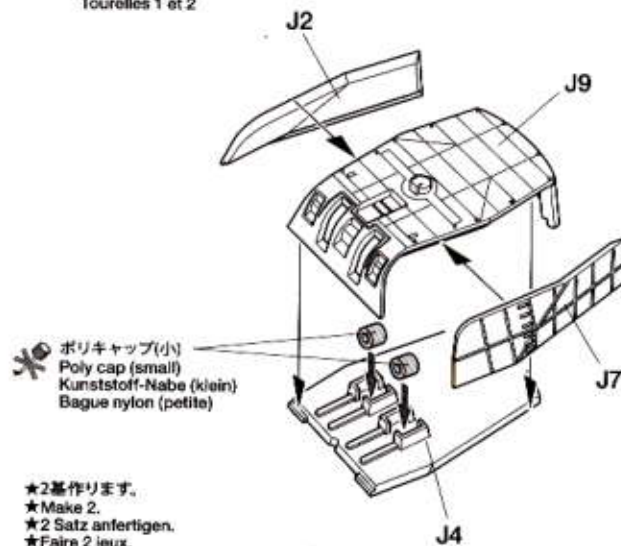
★最上に搭載されていた50口径3年式2号20.3cm連装砲塔には2種類あり、1番2番砲塔は標準型、3番砲塔は1段高い01レベルにあり8m測距儀を装備していました。この砲は当時の重巡洋艦の標準的な砲で、初速は835m/s、最大射程は28,900mで毎分3発の発射速度を持っていました。

★Mogami was equipped with two kinds of 3rd year Type No.2 twin 50 caliber 20.3cm gun turrets. Turrets No.1 and No.2 were standard type while turret No.3 was fitted with an 8m range finder and placed on deck level 01. These guns, which were standard for heavy cruisers at that time, featured muzzle velocity of 835m/s, firing range of 28,900m, and could fire 3 shells per minute.

★Die Mogami war mit zwei Arten von Typ 3.Jahr Nr.2 Zwillings-50er-Kaliber 20,3cm Kanonentürmen ausgerüstet. Die Türme Nr.1 und Nr.2 waren Standard-Ausführungen, wogegen der Turm Nr.3 mit einem 8m Entfernungsmesser ausgerüstet und auf Deck-Niveau 01 platziert war. Diese Kanonen, die für Schwere Kreuzer zu jener Zeit Standard waren, besaßen eine Mündungsgeschwindigkeit von 835m/s, einer Feuerreichweite von 28,900m und konnten 3 Granaten pro Minute verschießen.

★Le Mogami était équipé de deux sortes de tourelles Type N°2 armées de canons de 203mm calibre 50. Les tourelles 1 et 2 étaient du type standard alors que la tourelle 3 était équipée d'un télémètre 8m et placée au niveau de pont 01. Ces canons, standards sur les croiseurs lourds de l'époque, avaient une vitesse de tir initiale de 835m/s, une portée de 28.900m et une cadence de tir de 3 obus à la minute.

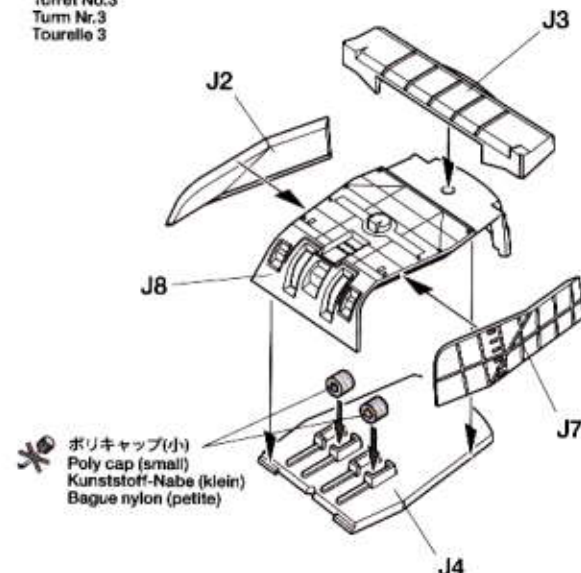
(1番、2番砲塔)
Turret No.1 and No.2
Turm Nr.1 und Nr.2
Tourelles 1 et 2



✳️ ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

(3番砲塔)
Turret No.3
Turm Nr.3
Tourelle 3



✳️ ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

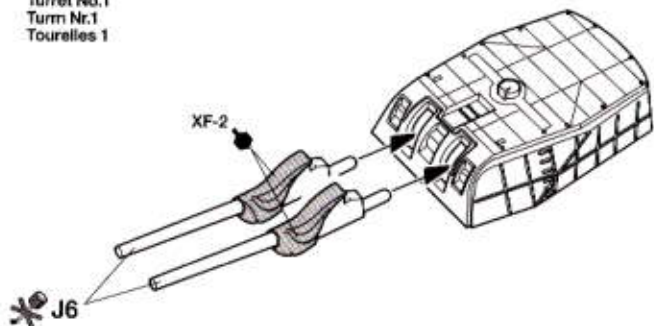
24

砲身の取り付け

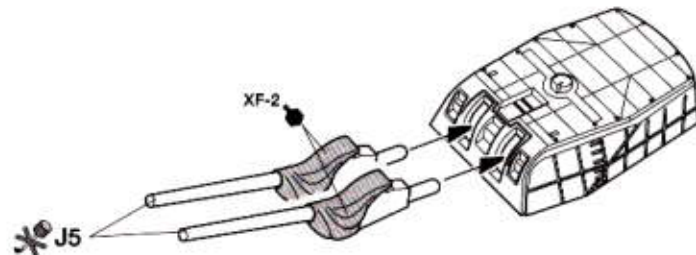
Attaching gun barrels
Anbringen der Kanonenrohre
Fixation des tubes de canons

★砲身は角度が3種類あり、好みによって後から付け替えることができるようになっています。ただし、砲塔が前方方向を向いている場合(非戦闘時または航行時)は下記の指定された物を取り付けてください。
★Gun barrels at 3 different angles are included and can be switched later as you wish. However, attach gun barrels as indicated below to depict non-combat or under way situations.
★Kanonenrohre für 3 verschiedene Winkel sind enthalten und können auch später nach Belieben angeordnet werden. Befestigen Sie die Kanonenrohre jedoch wie unten angegeben, wenn Sie eine Situation ohne Kampfeinsatz oder bei Marschfahrt darstellen wollen.
★Le choix est offert entre des tubes à trois élévations différentes. Les utiliser à son gré. Lorsque le navire faisait route ou n'était pas en action de combat, les tubes étaient orientés comme montré ci-dessous.

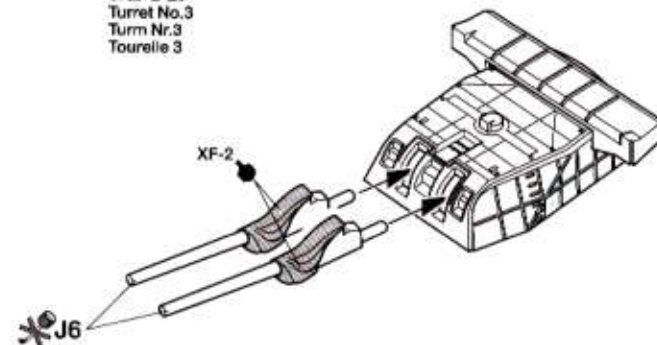
(1番砲塔)
Turret No.1
Turm Nr.1
Tourelles 1



(2番砲塔)
Turret No.2
Turm Nr.2
Tourelles 2



(3番砲塔)
Turret No.3
Turm Nr.3
Tourelle 3



25

主砲の取り付け Attaching turrets Einbau des Turmes Installation de la tourelles

アンカーチェーンの取り付け方

★どちらか一方の穴にアンカーチェーンの先端を入れ瞬間接着剤で固定します。図を参考にウインチに巻き付けもう一方の穴に入れ瞬間接着剤で固定してください。その際、アンカーチェーンがたるまないように注意します。

How to attach anchor chain

First insert one end of the chain to either hole and secure with instant cement. Wrap it around the winch and insert into the other hole and secure as shown. Attach the chain without slack.

Wie die Ankerkette anzubringen ist

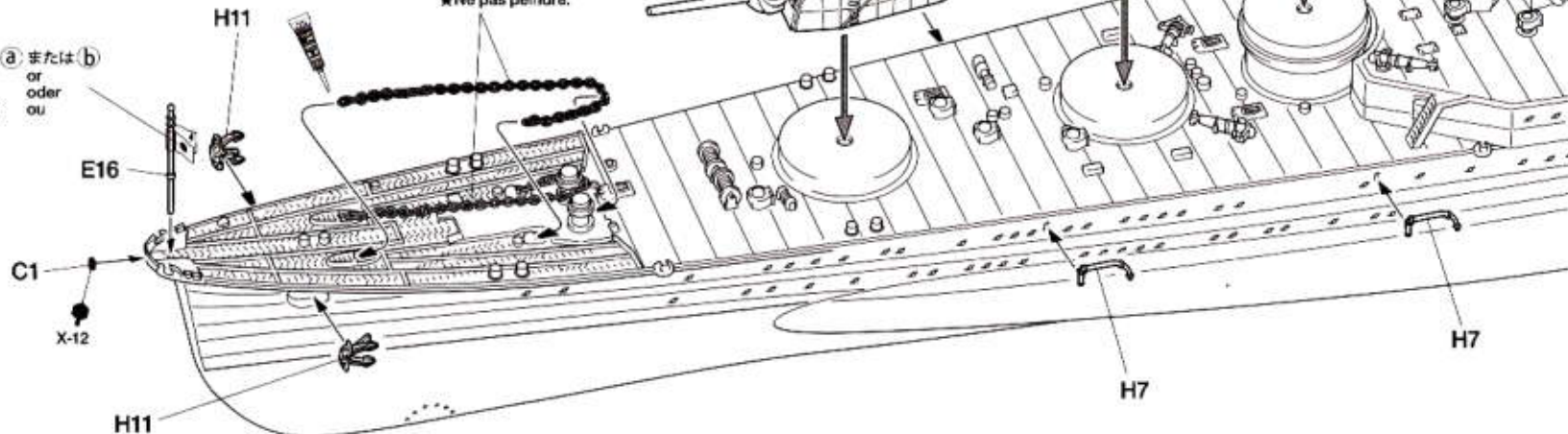
Setzen Sie zuerst ein Ende der Kette in eines der beiden Löcher und sichern Sie es mit Sekundenkleber. Die Kette um die Winch wickeln, in das andere Loch einführen und wie abgebildet festmachen. Die Kette ohne Durchhang befestigen.

Comment fixer la chaîne d'ancre

insérer en premier une extrémité de la chaîne dans l'un des trous et la fixer à la colle seconde. L'enrouler autour du cabestan, insérer dans l'autre trou et fixer comme montré. Fixer la chaîne bien tendue.

★停泊時に取り付けます。
★Attach when depicting the ship at anchor.
★Anbringen, wenn das Schiff vor Anker dargestellt wird.
★Pour le bateau à l'ancre.

①または②
or
oder
ou



アンカーチェーン
Anchor chain
Ankerkette
Chaîne d'ancre

★塗装しません。
★Do not paint.
★Nicht bemalen.
★Ne pas peindre.

26

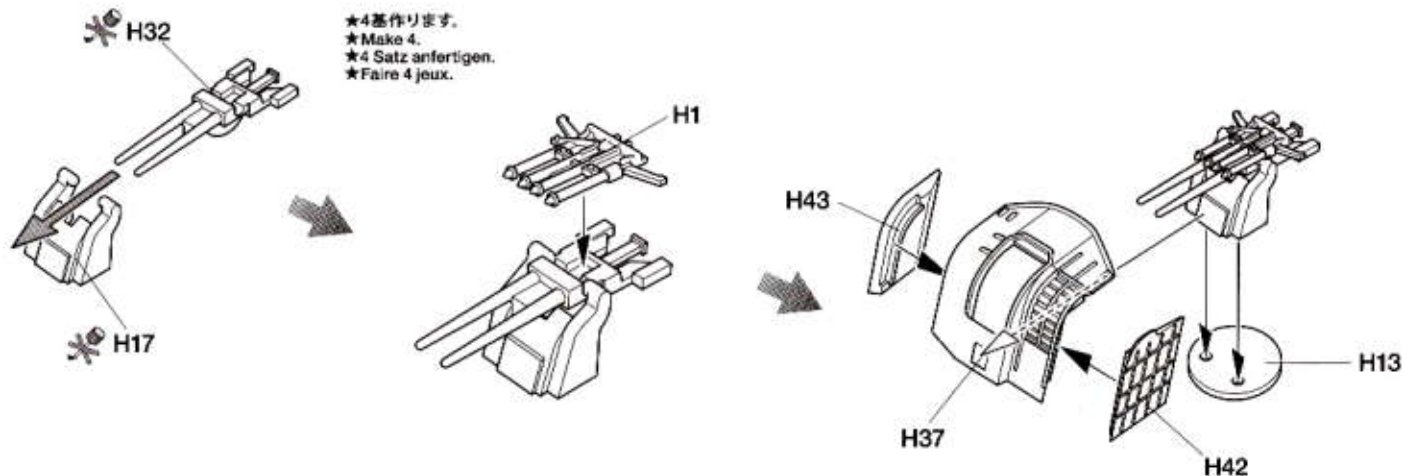
高角砲の組み立て High angle guns Kanonen mit großem Hubwinkel Canons à haute élévation

★最上の高角砲は正式には40口径89式12.7cm連装高角砲といいます。射程は3,000~12,000mで最大仰角は90度にもなります。最上はこの砲を連装砲としたものを片側2門計4門装備していました。

★These guns were officially called 12.7cm 40 caliber Type 89 twin high angle guns. They featured a 3,000 to 12,000m firing range with a maximum elevation angle of 90 degrees. Mogami was fitted with 2 mounts on each side, 8 guns in total.

★Diese Kanonen wurden offiziell 12,7cm 40 Kaliber Typ 89 Zwillings-Kanonen mit steilem Anstellwinkel genannt. Sie besaßen eine Feuerreichweite von 3.000 bis 12.000m und einen maximalen Anstellwinkel von 90 Grad. Die Mogami war mit 2 Kanonenhalterungen auf jeder Seite ausgerüstet, insgesamt also 8 Kanonen.

★Ces canons étaient officiellement dénommés canons doubles à haute élévation 127mm calibre 40 Type 89. Ils avaient une portée de 3.000 à 12.000 mètres à un angle maximal d'élévation de 90°. Le Mogami était équipé de deux affûts par côté, soit 8 canons au total.



★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.

27

内火艇の組み立て

Boats and launches
Boote und Barkassen
Vedettes et annexes

★内火艇(海軍辞典では「うちびてい」と読む)は主に士官の上陸用にもちいたほか、停泊地での哨戒任務に使用されました。内火ランチは主に兵員輸送に使用しました。スタイルはカッターにエンジンを取り付けただけのもので、輸送能力を重視しています。

★Motor boats were mainly used for bringing officers to shore and patrolling duties. Motor launches, cutters with engines, were mainly used to transport troops.

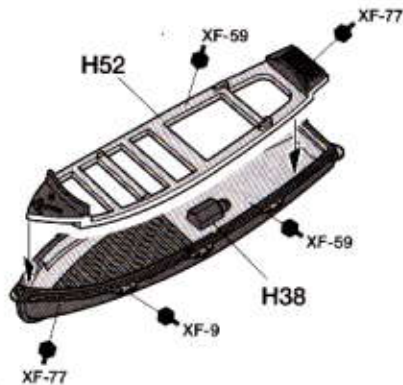
★Motorboote wurden hauptsächlich dazu benutzt, Offiziere an Land zu bringen oder für Patrouillen-Aufgaben. Motorbarkassen, Kutter mit Motor, wurden hauptsächlich für den Truppentransport eingesetzt.

★Les vedettes étaient principalement utilisées pour débarquer les officiers à terre et les patrouilles. Les annexes à moteur étaient principalement utilisées pour transporter les troupes.

《12m内火ランチ》
12m motor launch
12m Beiboot
Annexe de 12m

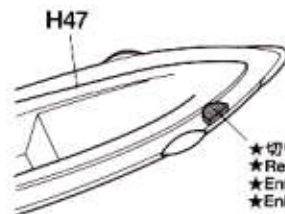
★2艇作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

★H48は12m内火ランチの帆です。
★H48 is a canvas cover for 12m motor launch.
★H48 is eine Segeltuch-Abdeckung für das 12m Beiboot.
★H48 est une bâche pour canot de 12m.

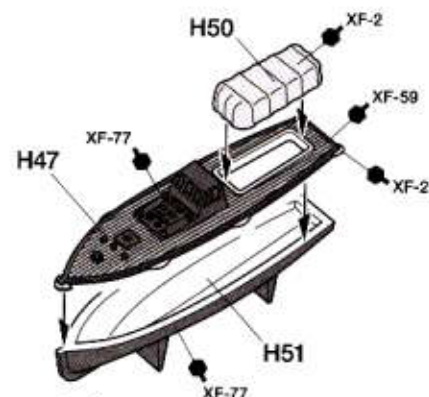


《11m内火艇》
11m motor boat
11m Motorboot
Vedette de 11m

★2艇作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.



28

中央甲板各部品の取り付け

Attaching central deck parts
Anbringen von Mitteldeck-Teilen
Pièces du pont central

★舷側に装備していた9mカッターは人員輸送、荷品運搬に使用するほか救助用にも使用され、12人のこぎ手で45名の人員を運搬できました。またこれらのカッターはAのように航行時には船外に吊るすことで、甲板上を広くし作業性を重視していました。戦闘時はBのように発砲の妨げになるため、甲板上に固定していました。

★9m cutters were used to transport troops and supplies. They were also used as lifeboats and could carry 45 passengers, plus 12 oarsmen. When the ship was under way, cutters were hung from radial davits as shown in A to ensure enough deck space. However, during battle, they were secured on the deck as shown in B to avoid hindering gun firing.

★9m Kutter wurden zum Transport von Truppen und Nachschub eingesetzt. Sie dienten auch als Rettungsboote und konnten 45 Passagiere, dazu 12 Ruderer transportieren. Befand sich das Schiff in Marschfahrt, wurden die Kutter, wie bei A abgebildet, in radialen Davits aufgehängt, um ausreichend freien Deckraum zu gewähren. Während einer Schlacht wurden sie jedoch, wie bei B abgebildet, auf Deck verstaute, um das Feuern der Kanonen nicht zu behindern.

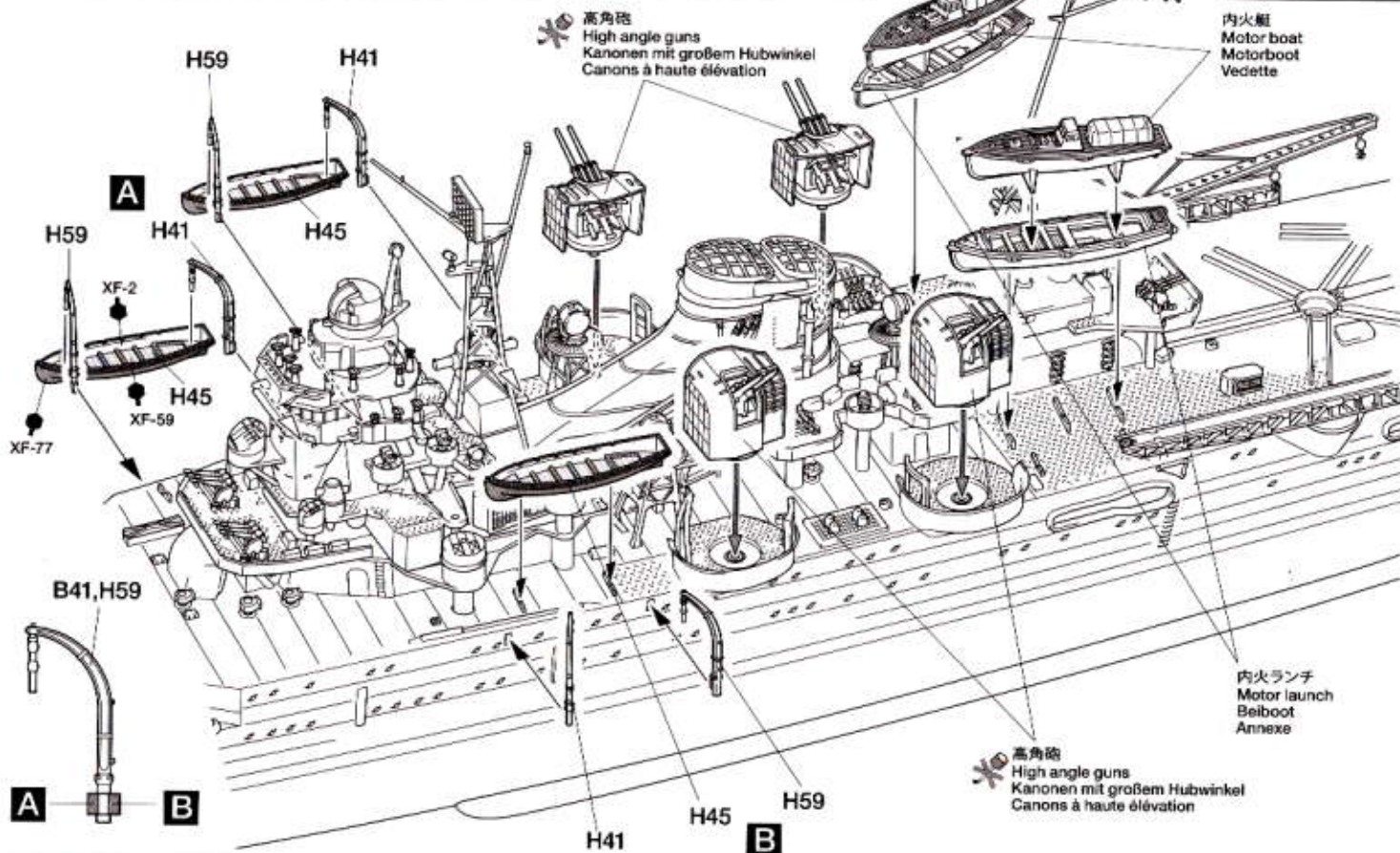
★Les canots de 9m servaient au transport de troupe et de matériel. Ils servaient également d'embarcations de survie et pouvaient accueillir 45 passagers en plus des 12 rameurs. Lorsque le navire faisait route, les canots étaient suspendus à des bossoirs arrondis comme montré en A, dégagant l'espace sur le pont. Cependant, durant les combats, ils étaient fixés au pont comme montré en B pour éviter de gêner les tirs.

★H41, H59は9mカッターをAのようにする場合は右側のAの部分
をBのようにする場合はBの部分を取り落としてください。

★Cut off tab A when depicting the hanging cutter. Cut off tab B
when depicting the cutter secured.

★Die Lasche A abschneiden, wenn der hängende Kutter
dargestellt wird. Die Lasche B abschneiden, wenn der verstaute
Kutter dargestellt wird.

★Couper la languette A pour représenter une embarcation
suspendue. Couper la languette B pour une embarcation
entreposée sur le pont.



29

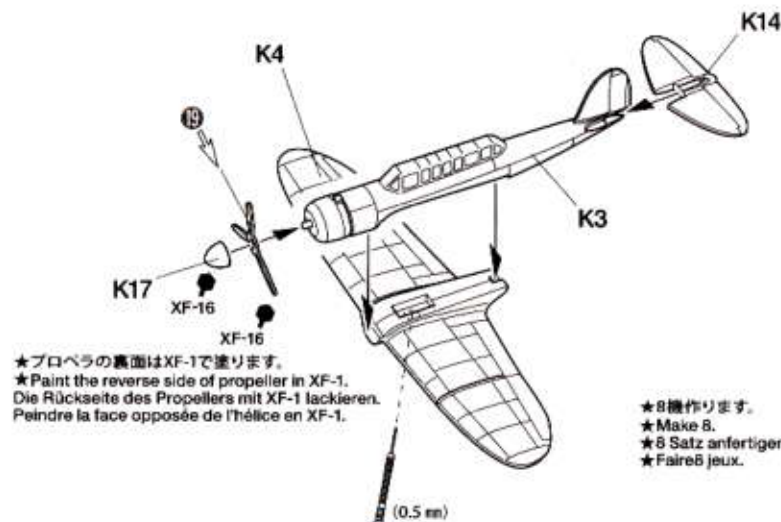
零式3座水上偵察機の組み立て Aichi E13A "Jake"

★94式水上偵察機の後継となる機体として開発されました。水上偵察機としては優秀で、生産数は1,350機におよび、大和を始め、多くの艦艇で使用されました。武装は電機席に7.7mm旋回機銃が装備されていたほか、機体への爆装も可能でした。

★The Aichi E13A "Jake" was developed to succeed the Kawanishi E7K. As reconnaissance floatplanes, they had excellent performance, and 1,350 were produced for deployment on the battleship Yamato and other naval vessels. They were equipped with a 7.7mm machine gun and could also carry bombs.

★Die Aichi E13A "Jake" wurde entwickelt, um die Kawanishi E7K abzulösen. Als Aufklärungs-Wasserflugzeug hatte sie hervorragende Leistung und es wurden 1.350 Stück zur Abstellung an das Schlachtschiff Yamato und andere Schiffe der Marine produziert. Sie waren mit einem 7.7mm Maschinengewehr ausgerüstet und konnten auch Bomben befördern.

★Le Aichi E13A "Jake" fut développé pour succéder au Kawanishi E7K. C'était une machine de reconnaissance aux excellentes performances et 1.350 furent produits pour équiper le cuirassé Yamato et d'autres bâtiments. Il était armé d'une mitrailleuse de 7,7mm et pouvait emporter des bombes.



★プロペラの裏面はXF-1で塗ります。
★Paint the reverse side of propeller in XF-1.
★Die Rückseite des Propellers mit XF-1 lackieren.
★Peindre la face opposée de l'hélice en XF-1.

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Percer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.

★8機作ります。
★Make 8.
★8 Satz anfertigen.
★Faire 8 jeux.

★塗装とマーキングはカラー図を参考にしてください。
★Refer to the separate diagram sheet for painting and markings.
★Beachten Sie für Lackierung und Markierung das separate Übersichtsblatt.
★Se reporter au feuillet séparé pour peindre et apposer les marquages.

30

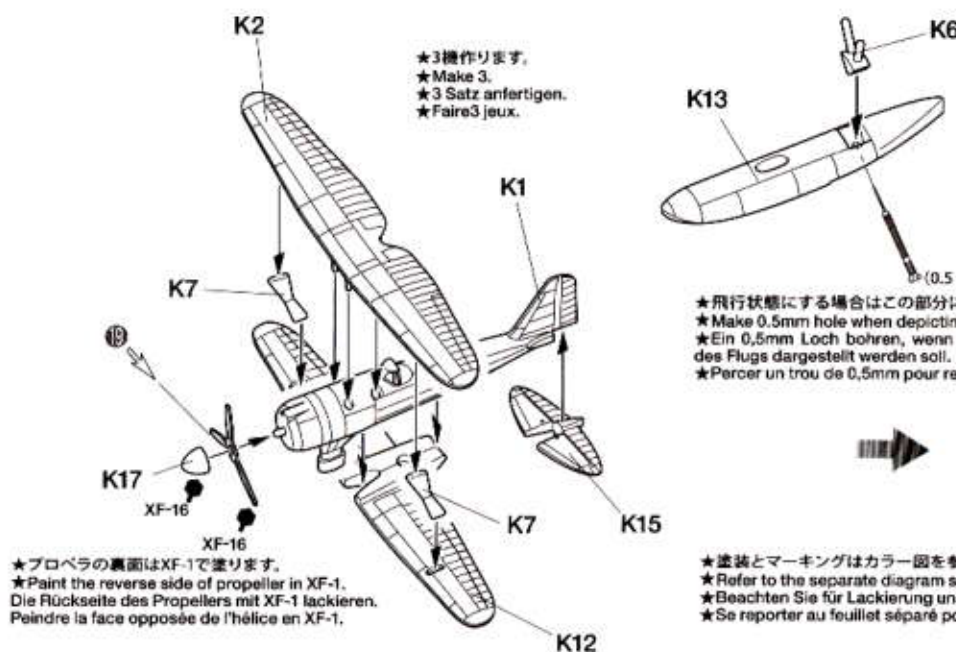
零式水上観測機の組み立て Mitsubishi F1M "Pete"

★昭和10年海軍はある程度の中戦能力を有した観測機の必要性から開発され昭和15年正式採用されました。機首には7.7mm固定機銃が2挺装備されていました。昭和18年までに1,118機が生産され、多くの艦艇に配備されたほか、陸上基地設置能力が貧弱な日本軍に対し、各水上母艦の搭載機はショートランド島を中心に集中配備されました。

★In 1935, Imperial Japanese Navy proposed to develop observation aircraft with better aerial combat performance, and the F1M was officially deployed in 1940. It had 2 nose-mounted 7.7mm machine guns, 1,118 of F1M were produced until 1943 for deployment on many naval vessels, and due to the inadequate land base construction capabilities of Japanese forces, they were also deployed to reinforce garrisons such as the Shortland Islands.

★1935 schlug die Kaiserliche Japanische Marine die Entwicklung eines Aufklärungsflugzeugs mit besserer Luftkampfleistung vor und die F1M wurde offiziell 1940 ausgeliefert. Sie hatte 2 in der Nase montierte 7,7mm Maschinengewehre. 1.118 F1M wurden bis 1943 zur Verteilung an viele Schiffe der Marine produziert und da die Japanischen Streitkräfte nicht ausreichende Baukapazitäten für Landbasen besaßen, wurden Sie auch zur Verstärkung von Garnisonen wie den Shortland-Inseln abgestellt.

★En 1935, la Marine Impériale Japonaise lança le développement d'avions d'observation possédant de meilleures aptitudes au combat aérien et le F1M entra en service en 1940. Il avait deux mitrailleuses de 7,7mm installées dans le nez. 1.118 F1M furent produits jusque 1943 pour être déployés sur de nombreux navires. Du fait de la faible capacité des japonais à construire des bases terrestres, des F1M renforcèrent également des garnisons terrestres comme celle des îles Shortland.



★3機作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

★プロペラの裏面はXF-1で塗ります。
★Paint the reverse side of propeller in XF-1.
★Die Rückseite des Propellers mit XF-1 lackieren.
★Peindre la face opposée de l'hélice en XF-1.

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Percer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.

★塗装とマーキングはカラー図を参考にしてください。
★Refer to the separate diagram sheet for painting and markings.
★Beachten Sie für Lackierung und Markierung das separate Übersichtsblatt.
★Se reporter au feuillet séparé pour peindre et apposer les marquages.

艦載機の搭載
Attaching planes
Befestigung der Flugzeug
Fixation des avions

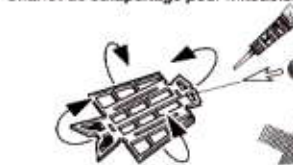
《零式三座用射出台車》
Catapult trolley for Aichi E13A
Katapultwagen für Aichi E13A
Chariot de catapultage pour Aichi E13A



★8台作ります。
★Make 8.
★8 Satz anfertigen.
★Faire 8 jeux.

★前
★Front
★Vorder
★Avant

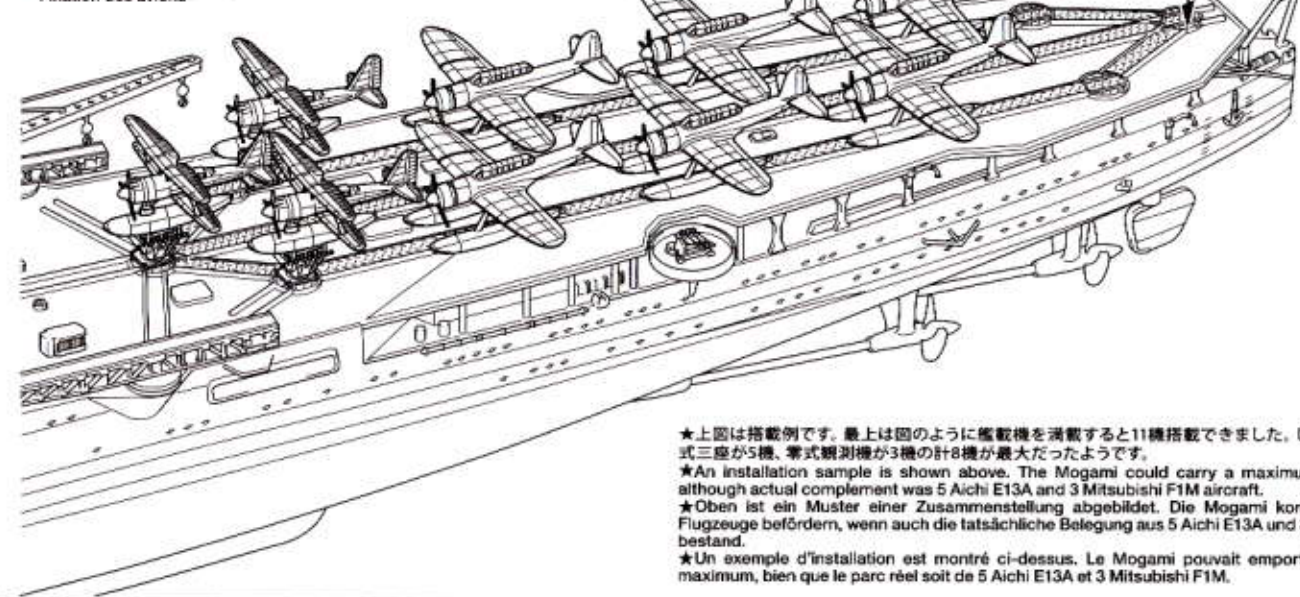
《零式観測機用射出台車》
Catapult trolley for Mitsubishi F1M
Katapultwagen für Mitsubishi F1M
Chariot de catapultage pour Mitsubishi F1M



★3台作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

★前
★Front
★Vorder
★Avant

《航空機の搭載》
Attaching planes
Befestigung der Flugzeug
Fixation des avions



《飛行機運搬台車》
Aircraft transport trolley
Flugzeug-Transportwagen
Chariot de manutention d'avions

★11台作ります。
★Make 11.
★11 Satz anfertigen.
★Faire 11 jeux.

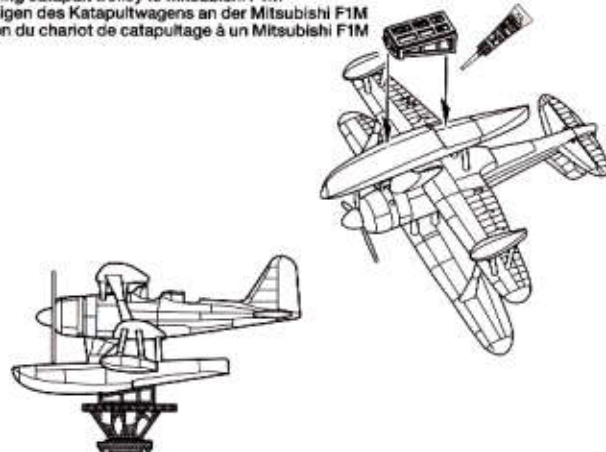
《零式三座射出台車の取り付け》
Attaching catapult trolley to Aichi E13A
Befestigen des Katapultwagens an der Aichi E13A
Fixation du chariot de catapultage à un Aichi E13A



★前
★Front
★Vorder
★Avant

K10

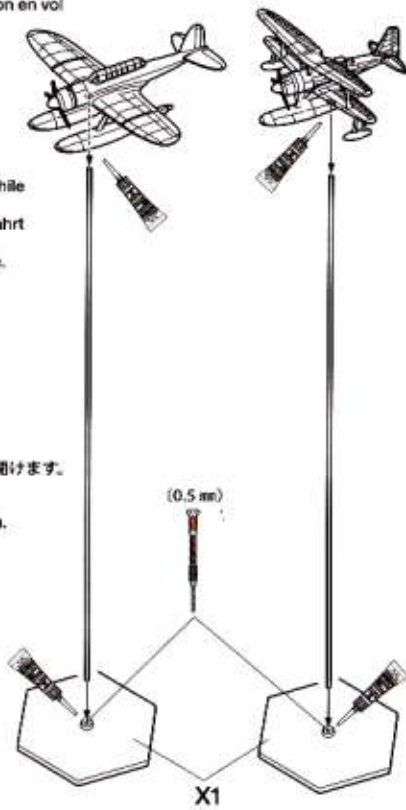
《零式観測機射出台車の取り付け》
Attaching catapult trolley to Mitsubishi F1M
Befestigen des Katapultwagens an der Mitsubishi F1M
Fixation du chariot de catapultage à un Mitsubishi F1M



《飛行状態にする場合》
When depicting a plane in flight
Bei Darstellung des Flugzeugs im Flug
Représentation d'un avion en vol

e または f
or
oder
ou

★航行時と停泊時に取り付けます。
★Attach when depicting the ship while
underway or at anchor.
★Anbringen, wenn das Schiff in Fahrt
oder vor Anker dargestellt wird.
★Pour le bateau en route ou à l'ancre.



★図の部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole.
★0.5mm Loch machen.
★Perçer un trou de 0.5mm.

★上図は搭載例です。最上は図のように艦載機を満載すると11機搭載できました。しかし実際には零式三座が5機、零式観測機が3機の計8機が最大だったようです。
★An installation sample is shown above. The Mogami could carry a maximum of 11 planes, although actual complement was 5 Aichi E13A and 3 Mitsubishi F1M aircraft.
★Oben ist ein Muster einer Zusammenstellung abgebildet. Die Mogami konnte maximal 11 Flugzeuge befördern, wenn auch die tatsächliche Belegung aus 5 Aichi E13A und 3 Mitsubishi F1M bestand.
★Un exemple d'installation est montré ci-dessus. Le Mogami pouvait emporter 11 avions au maximum, bien que le parc réel soit de 5 Aichi E13A et 3 Mitsubishi F1M.

PAINTING

《最上の塗装》

日本の海軍艦艇の塗装には、戦時塗色と呼ばれる少し青みを帯びた濃い灰色が使われていました。これは日露戦争直前に採用されて以来、太平洋戦争終結まで変更されませんでした。喫水線以下の艦底はダークレッドと呼ばれる暗い赤色です。甲板は鉄板張りとしリノリウム張りが使われ、鉄板張りは艦体と同色の佐世保海軍工廠グレイ、リノリウム張りはリノリウム甲板色でした。また煙突の頂部はブラックで塗装され、砲身基部の防水カバーはホワイトでした。各部の塗装は組立図中に、艦載機や船体は塗装図に指示してあります。

Painting the Mogami

From the Russo-Japanese War to the end of WWII, Japanese Navy ships were painted in a dark, blue-tinged gray "wartime" color. The hull beneath the waterline was painted in a dark red "maroon" color. Decks were covered with both hull-colored steel plating and red brown linoleum material. Funnel tips were painted black, and the waterproof covers at the base of the gun barrels were white. Refer to the instruction manual for the painting of

the aircraft and other details.

Lackierung der Mogami

Ab dem Russisch-Japanischen Krieg bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs waren die Schiffe der Japanischen Marine in einem dunklen, leicht bläulichen „Kriegszeit“-Grau lackiert. Der Rumpf unterhalb der Wasserlinie war in einer dunkelroten „Kastanien“-Farbe gestrichen. Die Decks waren sowohl mit Stahlplatten in Rumpffarbe als auch rotbraunem Linoleum beschichtet. Die Spitzen der Kamine waren schwarz lackiert und die wasserdichten Abdeckungen am Fuße der Kanonenrohre waren weiß. Beachten Sie die Bauanleitung bezüglich der Lackierung der Flugzeuge und anderer Details.

Peinture du Mogami

De la Guerre Russo-Japonaise à la fin de la 2^{ème} G.M., les navires de la Marine Japonaise étaient peints en gris foncé bleuté. Les œuvres vives sous la ligne de flottaison étaient rouge foncé marron. Les ponts étaient recouverts de lattes en acier de la couleur de la coque et de linoléum brun rouge. Les extrémités des cheminées étaient noires et les manchons étanches à la base des fûts des canons étaient blanc. Se reporter à la notice d'assemblage pour la mise en peinture des avions et autres détails.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはり方》

- ① はりたいマークをハサミで切り抜きます。
- ② マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上に置きます。
- ③ 台紙のはしを手で持ち、はるところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④ 指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤ やわらかな布でマークの内側の気泡を押し出ししながら、押しつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ① Cut off decal from sheet.
- ② Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③ Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④ Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤ Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

- ① Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
- ② Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
- ③ Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
- ④ Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.
- ⑤ Das Abziehbild leicht mit einem weichen Tuch andrücken, bis überschüssiges Wasser und Luftblasen entfernt sind.

APPLICATION DES DECALCOMANIES

- ① Découpez la décalcomanie de sa feuille.
- ② Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
- ③ Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
- ④ Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
- ⑤ Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.

タミヤカスタマーサービス取次店

パーツの
お取り寄せに
大変便利な
お店です。



TAMIYA
03-3899-3765 (静岡)
03-3899-3765 (東京)
03-3899-3765 (大阪)
03-3899-3765 (名古屋)

部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーがはられたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振ください。

②《代金引換のご利用法》

パーツ代金に加えて代引き手数料(315円)をご負担いただければ、電話またはホームページより代金引換

によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

www.tamiya.com



TAMIYA
**Model
MAGAZINE**
INTERNATIONAL

《タミヤモデルマガジン》
海外の一流モデラーの作品が豊富な写真で身近に楽しめます。タミヤをはじめ、世界の製品をテーマに製作記事や資料など詳しく紹介。模型作りの参考に欠かせません。英語版、一部900円。(日本語要訳つき)お求めは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

1/350 日本航空巡洋艦 最上 ITEM 78021

★価格は予告なく変更となる場合があります。

部品名	価格	部品コード
船底	1,500円	9337078
喫水板	1,450円	9337079
Aパーツ	1,470円	9007190
Bパーツ	910円	9007191
Cパーツ	700円	9007192
Dパーツ	1,470円	9007193
Eパーツ	750円	9007194
Fパーツ	340円	9007189
Hパーツ(2枚)	700円	9007195
J・Kパーツ(2枚)	980円	9117032
Xパーツ・展示台	500円	0227018
エッチングパーツ	1,600円	4708011
飛行機展示用支柱(6本)	250円	9807063
金具袋詰(ポリキャップ含む)	650円	9407244
ポリキャップ(大・10個)	200円	9442022
ポリキャップ(小・8個)	200円	0446168
マーク	300円	1407034
ネームプレート	220円	1437022
軍艦旗シート	220円	1407033
説明図	500円	1057279
塗装図	300円	1257004

AFTER MARKET SERVICE CARD

When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 78021
9337078	Hull
9337079	Waterline Plate
9007190	A Parts
9007191	B Parts
9007192	C Parts
9007193	D Parts
9007194	E Parts
9007189	F Parts
9007195	H Parts (2 pcs.)
9117032	J & K Parts (2 pcs.)
0227018	X Parts & Display Base
4708011	Photo-Etched Parts
9807063	Support (6 pcs.)
9407244	Metal Parts Bag
9442022	Poly Cap (Large, 10 pcs.)
0446168	Poly Cap (Small, 8 pcs.)
1407034	Decal
1437022	Name Plate
1407033	Battle Flag Sheet
1057279	Instructions
1257004	Painting Guide

《住所》 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7
株式会社タミヤ カスタマーサービス

《お問い合わせ電話番号》 静岡 054-283-0003

東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)

営業時間/平日▶8:00~20:00 土、日、祝日▶8:00~17:00

《カスタマーサービスアドレス》

http://tamiya.com/japan/customer/cs_top.htm

TAMIYA

78021 1/350 Mogami (11057279)

1/350
Ship

www.tamiya.com

《訂正》 CORRECTION / KORREKTUR / CORRECTION

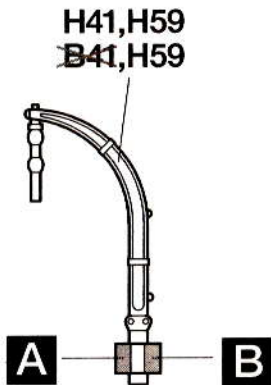
★P21、**28** で部品番号の誤りがありました。以下のように訂正をお願いします。

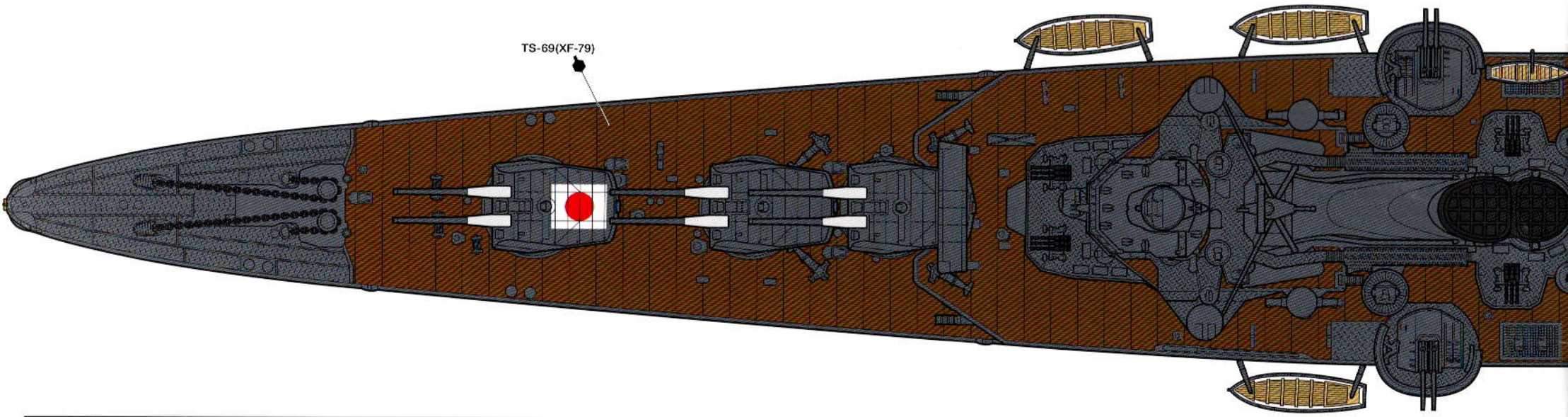
★Please use this sheet instead of the corresponding instructions.

★Bitte verwenden Sie anstelle der zugehörigen Anleitung dieses Blatt.

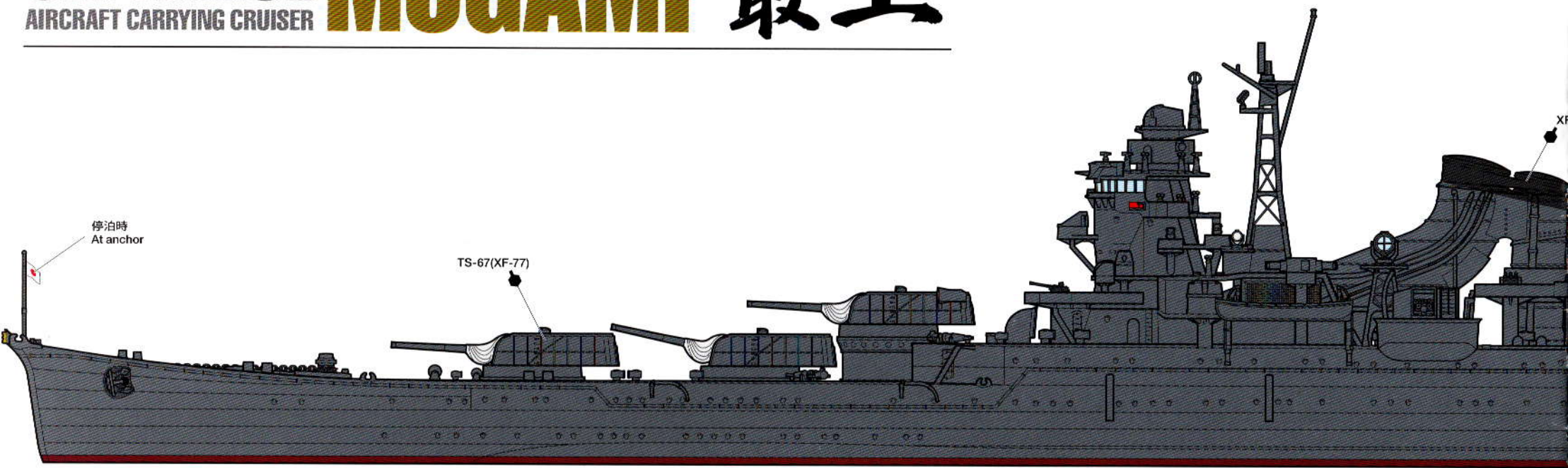
★Suivre ces instructions au lieu de celles de la notice de montage.

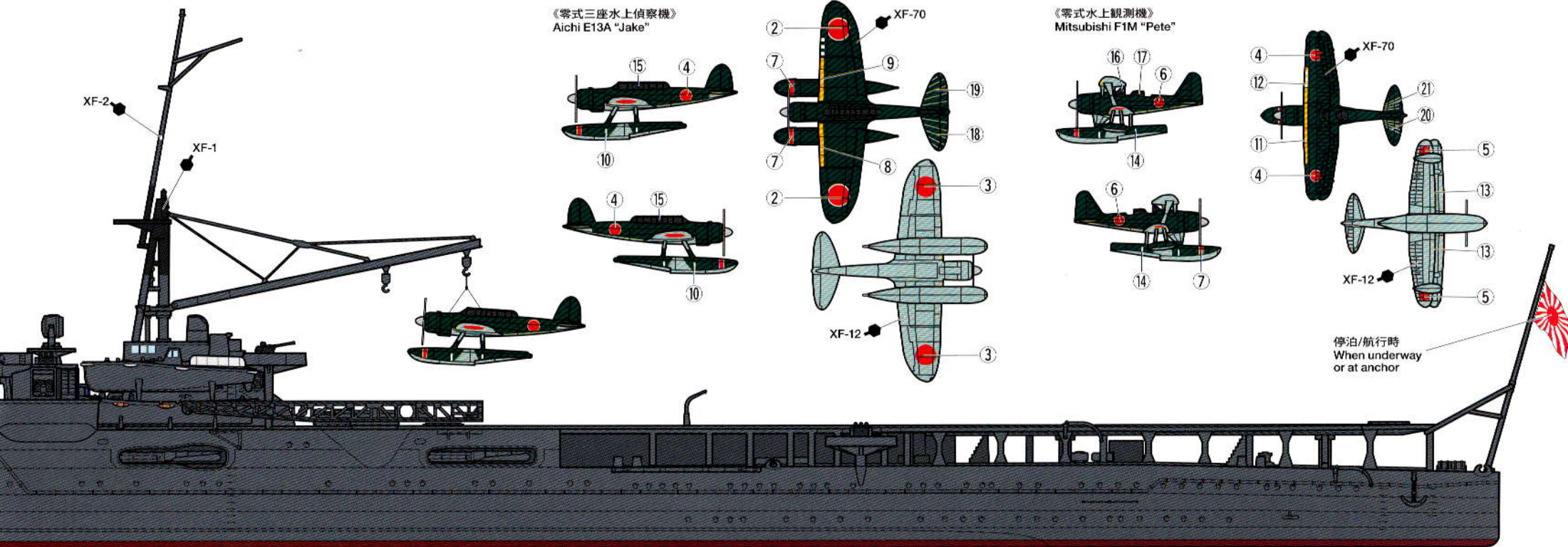
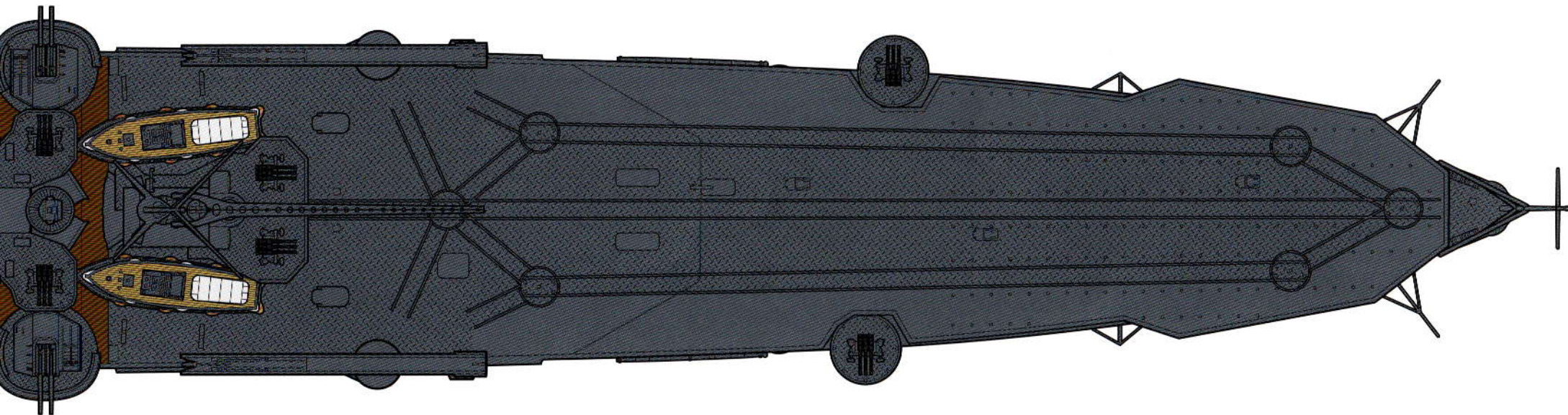
P21 **28**



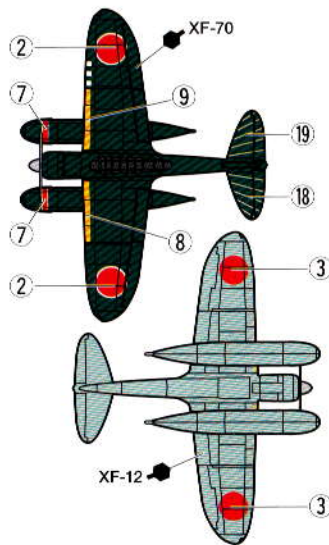
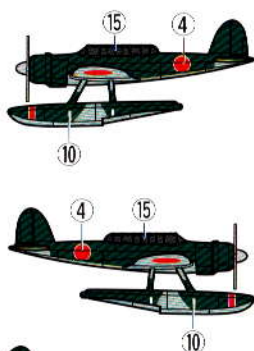


JAPANESE MOGAMI 最上
AIRCRAFT CARRYING CRUISER

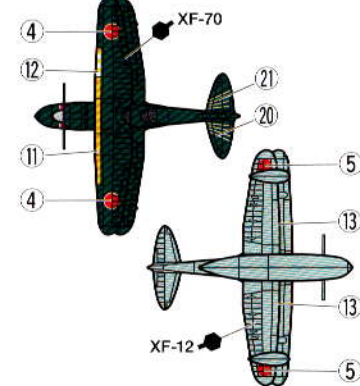
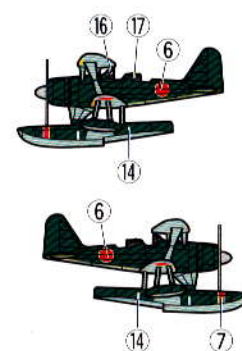




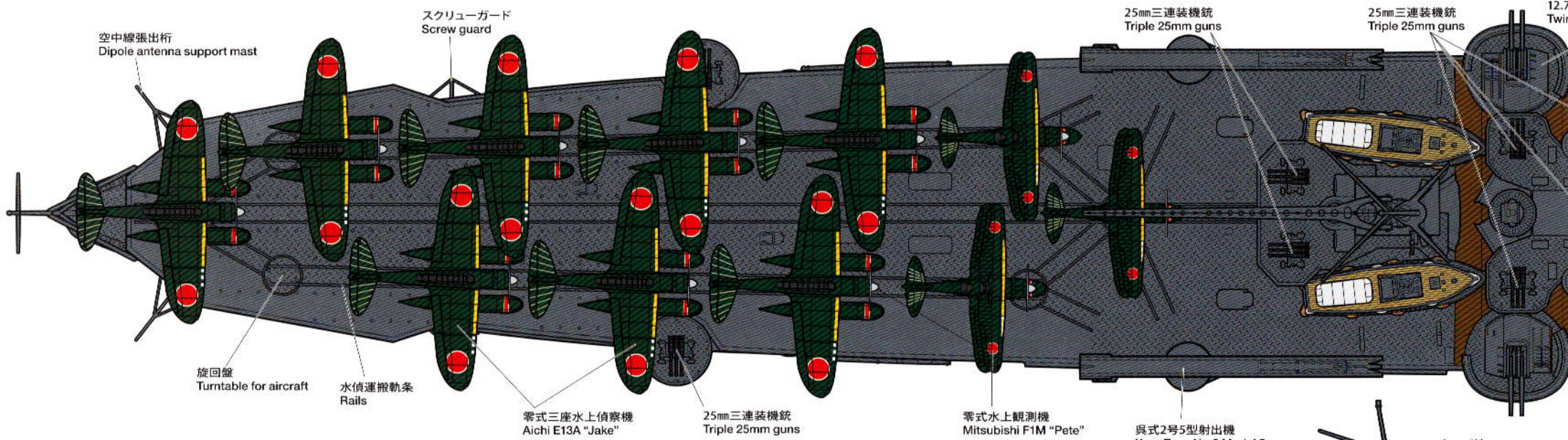
《零式三座水上偵察機》
Aichi E13A "Jake"



《零式水上觀測機》
Mitsubishi F1M "Pete"

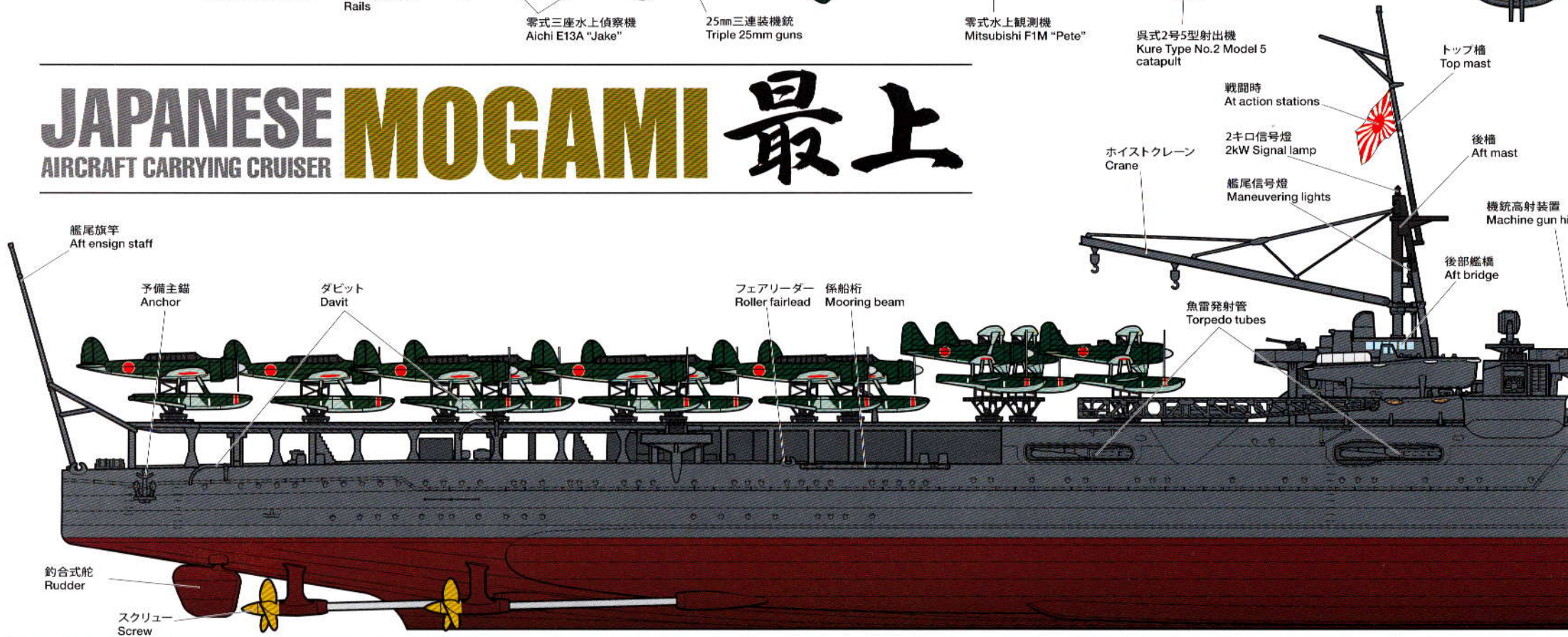


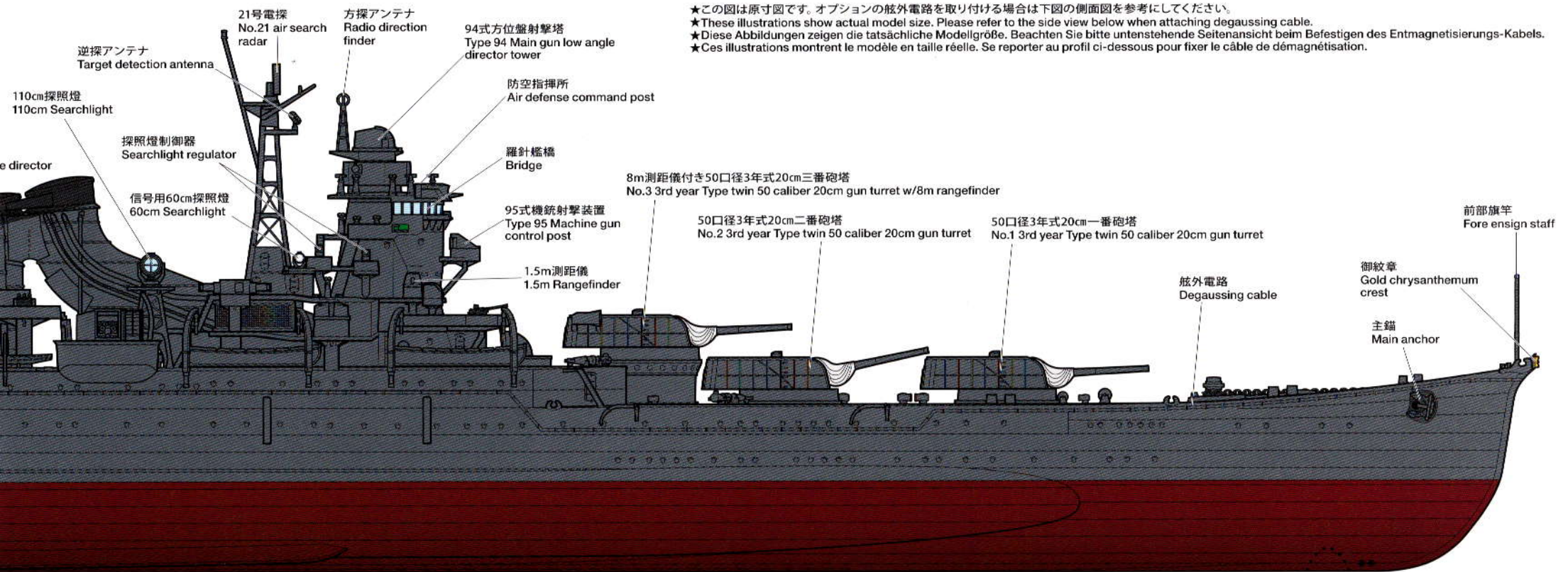
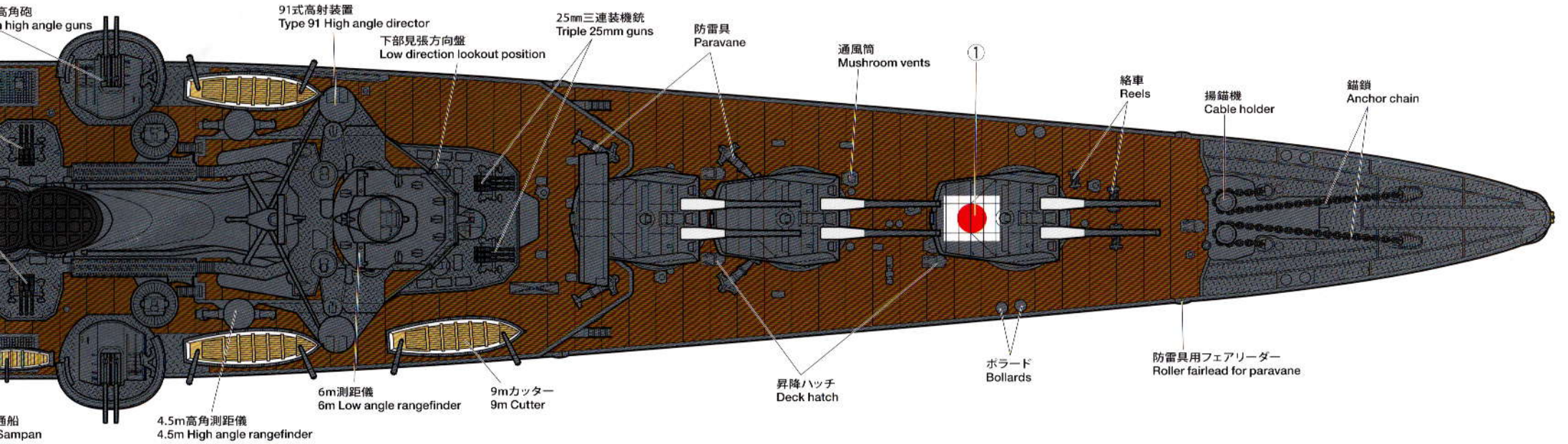
停泊/航行時
When underway
or at anchor



JAPANESE MOGAMI 最上

AIRCRAFT CARRYING CRUISER





★この図は原寸図です。オプションの舷外電路を取り付ける場合は下図の側面図を参考にしてください。
 ★These illustrations show actual model size. Please refer to the side view below when attaching degaussing cable.
 ★Diese Abbildungen zeigen die tatsächliche Modellgröße. Beachten Sie bitte untenstehende Seitenansicht beim Befestigen des Entmagnetisierungs-Kabels.
 ★Ces illustrations montrent le modèle en taille réelle. Se reporter au profil ci-dessous pour fixer le câble de démagnétisation.